

42885

教科書文庫

4
290
42-19/2
20000 44053

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

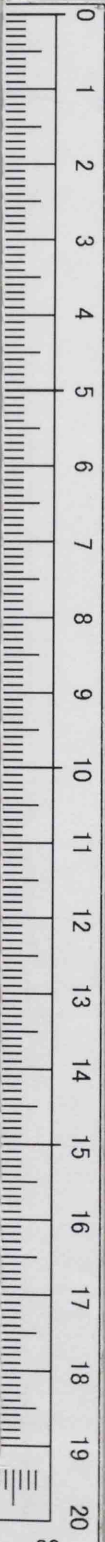
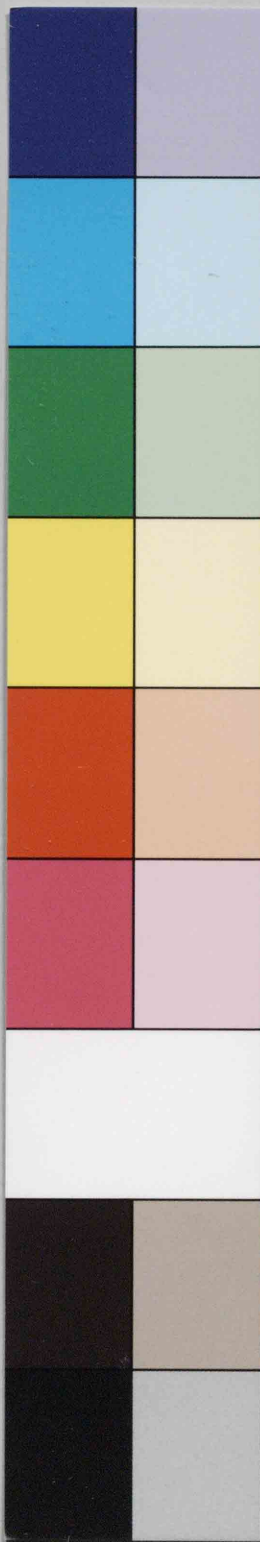
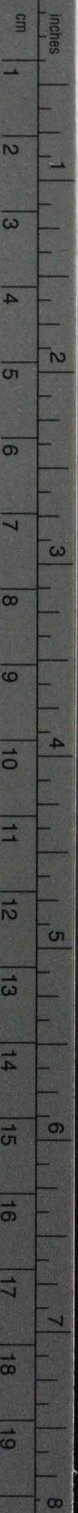


© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



女子地理概說

株式會社啓成社 版 藏

教科  
42-  
2000





資料室

教科書文庫
4
290
42-1912
2000044053

375.39  
K02

本科第四學年

矢田澄子



明治四十五年二月二十二日

文部省檢定濟

高等女子學校地理科用

小依武  
林田居  
盈豐成  
合著

女子

地理概說



東京  
株式會社啓成社

藏版





広島大学図書

2000044053



### 例言

一、本書は、明治四十四年文部省新定の高等女學校教授要目に據り、尙地理學最近の發達と、編者經驗上の考案とに基づきて編纂せるものにして、高等女學校並に之と同程度の女學校に於いて、規定の時間内に、地理概説を授くる教科用に供せんとするものなり。

一、本書編纂にあたりて特に意を用ゐたる事項略左の如し。

一、行文の平易簡明にして、且、流暢ならんことを力めしこと。

二、生徒の理解及び記憶に便せんが爲め、(一)眼目とすべき字句には……、等の符號を附し、(二)注意すべき條項毎に(一)(二)等の番號を附し、(三)適切斬新なる參照圖畫を成るべく多く挿入し、(四)所々概括表をかゝげて生徒の復習に便し、かねて生徒の概括表を作るの範に供し、(五)釐頭所々に問を設けて生徒自習の參照に供せしこと。

三、他學科との連絡を考慮し、特に自然地理學に關係多き理科との連絡には十分意を用ゐたること。



四、本邦に關係ある事項は概ね項を新にし、特に意を用ゐて丁寧記述せしこと。  
五、日常遭遇し易き現象及び實業思想の涵養等に資すべき教材に關しては、特に意を留めて記載したること。

六、材料の選擇印刷の體裁圖畫の配列等各般の事項に注意し、特に女生徒の學習上に對して趣味多からしめんことを期せしこと。

一、本書に引用せし統計類は、凡て最近の調査に據り、若しくは最近數ヶ年の平均を示し、以てその真相を得んことを計れり。

明治四十四年十月

編者誌す

縮

論

(學ぶ人のために地理學の組織を示す)

吾等の棲息する地球の表面には、幾多の邦國ありて、各々其の國情同じからず。是等の各國各地に就きて其の地勢・氣候・住民・政治・産業及び交通等の事實を明確にせんとするものを地誌・各説と稱す。日本地誌・外國地誌の如きこれなり。之に反して地球を自然界の一物體と見做して、其の形態運動、他の天體との關係並に陸界・水界・氣界・生物界及び是等相互間の關係等を攻究するものを地文學又は自然地理學と稱す。本書の第一篇は即ちこれなり。

又、地球を人類の住所と見做して、人類と自然地理との關係を究め、更に人類の分布・人種・人類生活の状態(即ち俗等)人類



の聚落(村落都邑及び國家等)人類活動の狀勢(産業交通政治及び國力比較等)等に關して、其の發達進歩の原由及び盛衰の理法等を究明せんとするものを人文地理學と稱す。本書の第二篇は即ち之に當る。而して、以上の地誌・地文學(自然地理學)及び人文地理學の三ツを合せたるものを地理學とは云ふなり。尙左に之を示して、其の關係を明にすべし。

地理學の組織

- (一) 地誌各説即ち各國各地の地理
- (二) 地方誌又處誌
- (一) 總論
- (二) 地文誌
- (三) 人文誌
- (一) 地球の形態・運動等の研究
- (二) 陸界の研究
- (三) 水界の研究
- (四) 氣界の研究
- (五) 地勢・氣候・生物相互關係の研究
- 地理學
- (二) 地文學又自然地理學

表覽

- (一) 人類と自然地理との關係の研究
- (二) 人口及び人種に關する研究
- (三) 人類の生活狀態の研究
- (四) 人類の聚落の研究
- (五) 人類の活動狀態の研究
- (三) 人文地理學



# 子女地理概説目次

## 第一篇 自然地理(自一至五六頁)

第一章 太陽系……………頁

一、太陽……………

二、太陽系……………

第二章 地球及び其の運動……………頁

一、地球の形態……………

二、自轉及び晝夜の變化……………

三、公轉と晝夜の長短及び四季の變化……………

第三章 月及び其の運動……………頁

一、月の盈虧……………

二、日月の蝕……………

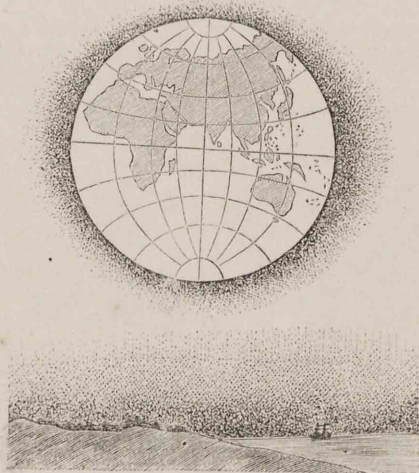
第四章 曆……………頁

一、曆……………

二、季及び節……………

目次

陸・水・氣界圖



上圖は地球を外側より見たるものにして、下圖は海岸に於ける陸地の断面を示す。下圖の陸上に黒く見ゆるは陸生物なり。



第五章 陸界の状態……………九

第一節 陸界の生成……………九

- 一、陸界……………
- 二、造山作用……………

第二節 火山……………一〇

- 一、火山の形態……………
- 二、火山の活動……………
- 三、火山の餘勢……………

第三節 地震……………一五

- 一、地震の原因……………
- 二、地震の性状……………
- 三、震災軽減法……………

第四節 水・大氣及び生物の作用……………一九

- 一、水の循環……………
- 二、水的作用……………
- 三、大氣的作用……………

四、生物の作用……………

第五節 地相の成因……………二四

- 一、山及び谷……………
- 二、湖沼……………
- 三、平地……………

四、本邦風景の標式……………

第六章 海洋の状態……………三〇

第一節 海面及び海底……………三〇

- 一、海面……………
- 二、海の深さ……………
- 三、海底……………

第二節 海水の性質……………三三

- 一、海水の色……………
- 二、海水の温度……………
- 三、氷原・浮氷・氷山……………

第三節 海水の運動……………三四

- 一、波浪……………
- 二、津浪……………
- 三、海流……………

四、日本近海の流れ……………

五、潮汐……………

第七章 氣界の状態……………三六

第一節 氣温及び氣壓……………三九

- 一、氣温の高低と等温線……………
- 二、我國の氣温……………

三、氣壓の高低と等壓線……………

第二節 風……………四二



一、風の起因及び強弱 二、風の種類

第三節 大氣中の水分……………四四

一、雲及び霧 二、露及び霜 三、雨・雪・霰・霰雹

四、雨量の分布 五、日本の雨量 六、日本の雨季

第四節 大氣中の現象……………四九

一、碧空 二、薄明・薄暮及び朝焼夕焼

三、日月の暈

第八章 天氣及び季候……………五〇

一、天氣 二、氣候

第九章 地勢・氣候・生物相互の關係……………五三

一、地勢及び氣候と生物 二、本邦の生物

第二篇 人文地理(自五六頁至九四頁)

第一章 自然と人類との關係……………五七

第一節 地形と人文……………五七

一、山と人文 二、河と人文 三、海岸と人文

四、島と人文

第二節 氣候と人文……………六一

一、氣候と文化 二、氣候と健康

第二章 住民及び其の狀態……………六五

第一節 世界の人類……………六五

一、人口 二、人種 三、文野

四、土俗 五、言語及び宗教

第二節 人類の聚落……………七三

一、村落 二、都會 三、國家 四、政治



目次終

第三章 生業及び重要産物の分布…………… 六

一、生業……………

二、重要産物の分布……………

第四章 交通…………… 八〇

一、交通機關の種類……………

二、交通機關の發達……………

第五章 世界主要諸國の國力比較…………… 八四

一、國力の要素……………

二、國力比較……………

第六章 世界に於ける本邦の地位…………… 九三

一、地理上……………

二、國力上……………

附録

(一) 各國人民の主なる職業別…………… 九五

(二) 世界の重要産物及び其の産地(其の一)…………… 九六

(三) 我國と外國との交通…………… 九九

子女地理概説 挿圖書目録

一 陸界・水界・氣界圖…………… 緒言 四頁

一 太陽表面の黒點を示す圖(第一圖)…………… 一

一 太陽と八遊星との比較圖(第二圖)…………… 二

一 太陽系の圖(第三圖)…………… 二

一 北半球の夏の場合の説明圖(第四圖)…………… 四

一 日出點、日沒點の移動及び晝夜の長短を説明する圖(第五圖)…………… 四

一 月の盈虧を示す圖(第六圖)…………… 五

一 月の表面の一部を示す圖(第七圖)…………… 六

一 日蝕・月蝕説明圖(第八圖)…………… 六

一 日蝕皆既の時に見たる太陽の圖(第九圖)…………… 七

一 四季に於ける地球の位置を示す圖(第十圖)…………… 八

一 黃道説明圖(第十一圖)…………… 八

一 伊豆大島の三原火山及び其斷面圖(第十二圖)…………… 一〇

一 火山の形態を示す圖(第十三圖)…………… 一〇

一 磐梯山破裂の圖(第十四圖)…………… 一一

一 發掘せられたるポンペイ市街の景(第十五圖)…………… 一二

一 火山及び地震分布圖(別刷)…………… 一二

一 本邦の火山脈圖(別刷)…………… 一二

一 箱根大湧谷噴氣孔の景(第十六圖)…………… 一四

一 美濃根尾谷斷層の圖(第十七圖)…………… 一六

一 地殼震動の圖(第十八圖)…………… 一七

一 堀り抜き井の圖(第十九圖)…………… 一七

一 ナイヤガラ瀑布退位の圖(第二十圖)…………… 二〇



- ―アルプス山中チロル州土柱の景(第二十一圖)……………三
- ―河成段丘及び其の断面圖(第二十二圖)……………三
- ―石灰洞内部の景(第二十三圖)……………三
- ―ニール河口の三角洲圖(第二十四圖)……………三
- ―松島材木島の奇景(第二十五圖)……………三
- ―河水の作用を示す模式圖(第二十六圖)……………三
- ―清國河南地方の凹道(第二十七圖)……………三
- ―植物の根が地殻を破壊する圖(第二十八圖)……………三
- ―フランスの東北部なるユラ山脈の構造を示す圖(第二十九圖)……………三
- ―北米コロラド地方の峡谷及び侵蝕臺地の景(第三十圖)……………三
- ―甲府盆地の圖(第三十一圖)……………三
- ―諏訪湖附近地形變遷の圖(第三十二圖)……………三
- ―サハラ砂漠の景(第三十三圖)……………三

- ―海深測量器の圖(第三十四圖)……………三
- ―海中の多孔蟲及び海底の軟泥を示す圖(第三十五圖)……………三
- ―南極地方の大氷山の景(第三十六圖)……………三
- ―波の説明圖(第三十七圖)……………三
- ―磯浪の景及び大波浪の断面圖(第三十八圖)……………三
- ―世界海流圖(別刷)
- ―日本近海海流圖(別刷)
- ―大高潮及び大低潮の圖(第三十九圖)……………三
- ―太陽光線の直射と斜射との差違を示す圖(第四十圖)……………三
- ―アネロイドバロメーターの外形及び内部の圖(第四十一圖)……………三
- ―世界等温線圖(別刷)
- ―本邦等温線圖(別刷)

- ―風力計の一種を示す圖(第四十二圖)……………四
- ―氣流の大循環を示す圖(第四十三圖)……………四
- ―海風説明圖(第四十四圖)……………四
- ―我國に襲來する旋風中心の主なる進路を示す圖(第四十五圖)……………四
- ―龍卷の圖(第四十六圖)……………四
- ―雲の種類を示す圖(第四十七圖)……………四
- ―雪の結晶の一例を示す圖(第四十八圖)……………四
- ―雹の断面圖(第四十九圖)……………四
- ―雨量計の圖(第五十圖)……………四
- ―世界雨量分布圖(別刷)
- ―本邦雨量分布圖(別刷)
- ―百葉箱の圖(第五十一圖)……………五
- ―天氣圖(第五十二圖)……………五
- ―地方天氣豫報信號標(別刷)

- ―高山植物の數例を示す圖(第五十三圖)……………五
- ―臺灣にて水牛を役する圖(第五十四圖)……………五
- ―日本の植物帯及び氣候帶説明圖(第五十五圖)……………五
- ―臘朧獸の圖(第五十六圖)……………五
- ―地形と行政区劃との關係を示す圖(第五十七圖)……………五
- ―桂川水力電氣發電所の景(第五十八圖)……………五
- ―直線狀海岸の圖(第五十九圖)……………六
- ―樹枝狀海岸の圖(第六十圖)……………六
- ―鋸齒狀海岸の圖(第六十一圖)……………六
- ―氣候と健康との關係を示す圖(第六十二圖)……………六
- ―氣候と生活状態との關係を知るべき圖(第六十三圖)……………六
- ―亞米利加土人の肖像(第六十四圖)……………六
- ―亞弗利加ネグロ人種の肖像(第六十五圖)……………六



- ニュージーランド等に住するマオリ人の肖像(第六十六圖)……………七
- 各人種毛髪の様状及び其の断面圖(第六十七圖)……………六
- 水上及び樹上に設けたる家屋の景(第六十八圖)……………六
- 安南地方上流人士の手爪の圖(第六十九圖)……………六
- 散村の形式を示す圖(第七十圖)……………七
- 街村の形式を示す圖(第七十一圖)……………七
- 城壁もて圍みたる都會の圖(七十二圖)……………七
- 一定の計劃によりて造られたる都會の圖(大連市、第七十三圖)……………七
- 大農法耕作の景(北米カナダ農業、第七十四圖)……………七
- 米及び茶の産地分布圖(第七十五圖)……………七
- 小麥及び綿産地分布圖(第七十六圖)……………七
- 世界石炭産額比較圖(第七十七圖)……………八〇
- 主要諸國の面積比較圖(第七十八圖)……………八五

- 主要諸國の輸出入比較圖(第七十九圖)……………八六
- 主要諸國海軍形勢一覽圖(第八十圖)……………八七
- 主要諸國郵便物數比較圖(第八十一圖)……………九〇

以上 (別冊共總計九拾一圖)

# 子女地理概説

## 第一篇 自然地理

### 第一章 太陽系

第一圖  
太陽表面の黒點を示す

● 恆星とは自ら光を放ち、且他の星との相互の位置の變らざる天體をいふ。

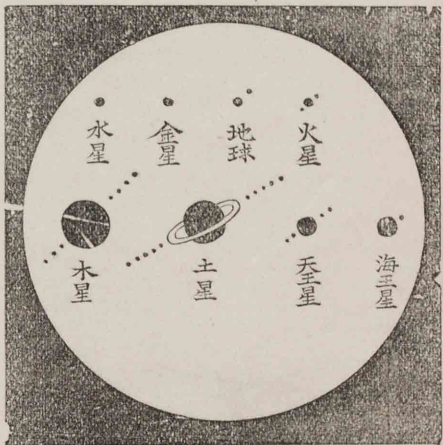


太陽表面の黒點は多數に現るす。其の位置もまた變りなす。

一、太陽 我等の住居する地球に、光と熱とを與ふる太陽は、我地球に最も近き恆星にして、非常なる高熱を有する大球體なり。其の直徑は地球(直徑約三千二百五十里)の約百



第二圖 太陽と八大遊星との比較圖 各遊星の傍なる小天體は其の遊星の衛星なり。

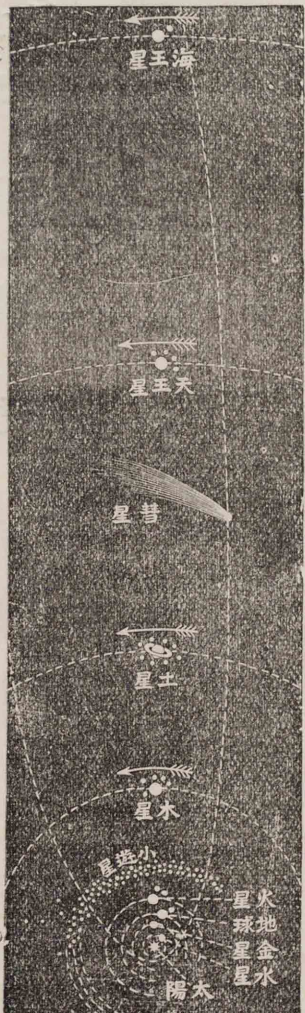


○九倍に當る。

太陽は地球を距ること、約三千七百萬里餘にして、之に達するには本邦の急行汽車にて、晝夜兼行するも、尙凡そ七百餘年を要すべし。

三、太陽系 太陽を中心として、其の周圍を運行する我地球の如きものを遊星と稱す。其の主な

第三圖 太陽系の圖



るもの水星金星地球

遊星とは自ら光を放つことなく、且、恆星の周圍を運行し其の位置常に變はる天體をいふ。

火星・木星・土星・天王星・海王星の八大遊星とす。遊星には、又、衛星と稱する小天體を伴ふことあり。月は即ち我地球の衛星なり。是等の衛星・遊星及び太陽を一括して太陽系と稱す。

時として小なる天體の地上に落下することあり、之を隕石と云ふ。晴夜に往々見る所の流星は、一種の隕石なり。

### 第二章 地球及び其の運動

一、地球の形態 地球は、畧球體をなす。其の證左の如し。

- 一、海岸に立ちて出港する船を望むに、先づ其の船腹水面にかくれ、次に船體の影を失ひ、やがて全部を見るを得ざること。
- 二、高山に登れば、頂上に至るに従ひ、視域の次第に擴張せらるること。
- 三、世界周行者が、少しも其の進路の方向を更ふることなければ、再び出



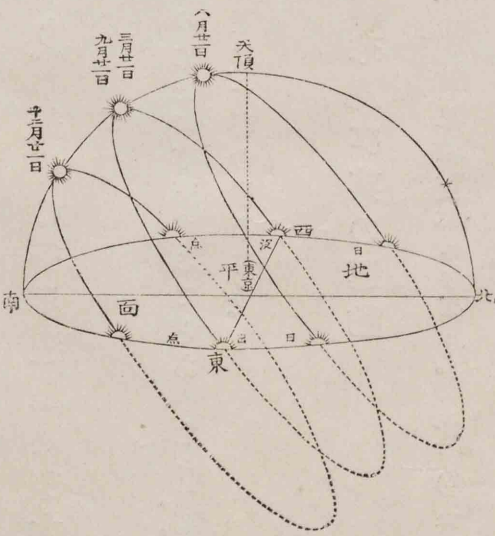
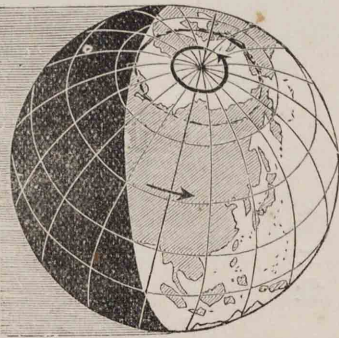
第四圖 北半球の夏の場合の説明圖

第五圖 日出點、日没點の移動及び晝夜の長短を説明する圖

我國の標準時の經度を問ふ。

發點に歸著するを得ること。

二、自轉及び晝夜の變化 地球は、毎日、地軸を中心として、西より東に一回轉す。之を自轉といふ。自轉に由りて晝夜の別を生じ、且、地方によりて時間の異同を生ず。これ各地に標



準時<sup>○</sup>を設けて時間を一定し、種々の取引に便する所以なり

三、公轉と晝夜の長短及び四季の變化 地球は、自轉をな

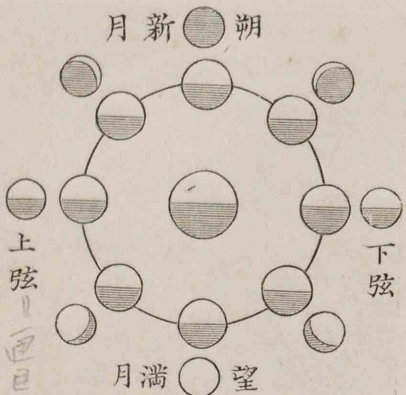
晝夜を生ずる原因と晝夜の長短を生ずる原因との異なる點を比較せよ。

す外、又、三百六十五日餘の時間を以て、太陽を中心とせる橢圓形の軌道を一週す。之を公轉と云ふ。

公轉の際、地軸は軌道面に對して、六十六度半の傾斜をなして運行するが故に、晝夜の長短及び四季の變化を生ず。

第三章 月及び其の運動

第六圖 月の盈虧を示す。



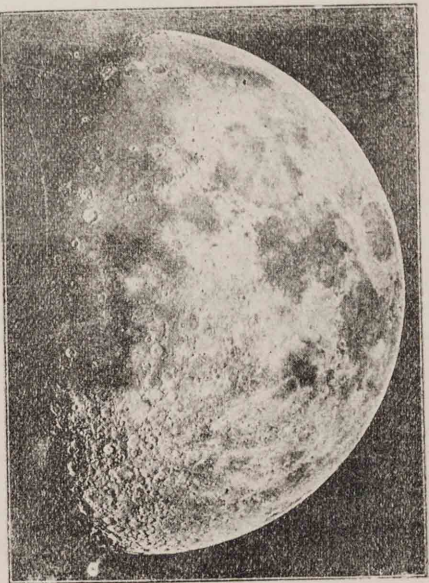
一、月の盈虧 月(陰太)は、地球の周圍を運行しつゝ、又、地球と共に太陽の周圍をめぐるものにして、地球の衛星なり。

其の輝けるは、太陽の光線を反射するに由る。而して月に盈虧



第七圖 月の表面の一部を示す。

月面には多くの  
舊火口見ゆ。

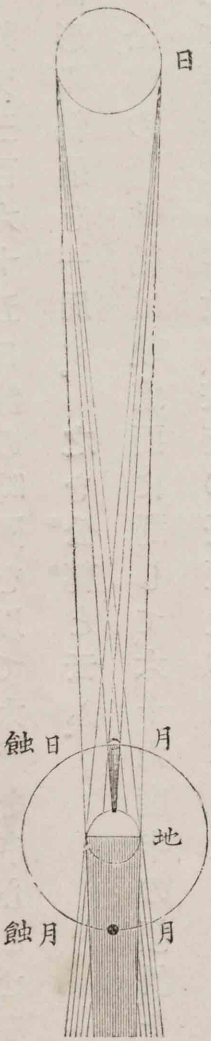


の變化あるは、地球に對する位置の變ずるが爲なり。

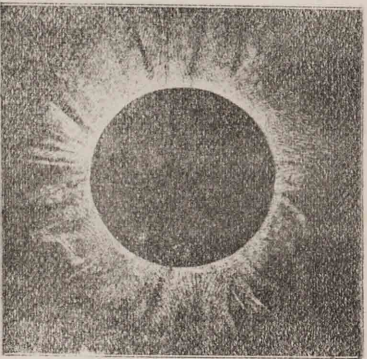
月の直径は、地球の直径の大約四分一餘にして、相距ること凡一千里、約二十九日三分一を以て地球を一周す。而して水空氣生物等全く無しと云はる。

二、日月の蝕 月の盈虧の外、吾等は時として、月蝕又は日蝕を見ることあり。

第八圖 日蝕月蝕説明圖



第九圖 日蝕皆既の時に見たる太陽にして、其の周圍に放射せる白光は太陽面の瓦斯體なり。



(一) 月が、我地球の陰影の内に入る時は、即ち月蝕を生ず。部分蝕皆既蝕の二種あり。(二) 日蝕は、月が太陽と地球との間に入りて、太陽の光線を遮るによりて起る。部分蝕皆既蝕金環蝕の三種あり。

日蝕は新月、月蝕は満月の時に限りておこる。

### 第四章 曆

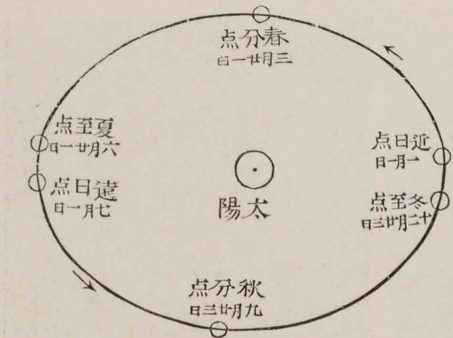
一、曆 地球と他の天體との關係によりて生ずる日々の現象及び行事等を記録せるものを曆と云ふ。地球一自轉の時間(凡二十)を一日とし、一公轉の時日を一年と名づけ、之



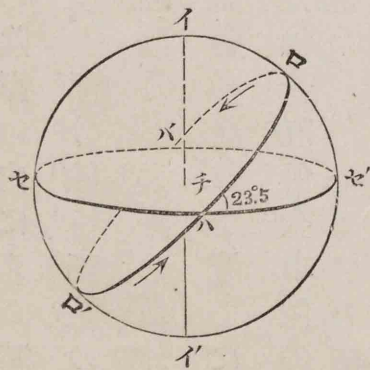
神武天皇即位紀元年數の四を以て整除し得べき年を閏年とす。但紀元年數より六百六十年を減じて百を以て整除し得べきもの中、更に四を以て其の商を整除し得ざる年は平年とす。(明治三十年九月勅令)

### 第十圖 四季に於ける地球の位置を示す。

第十圖 四季に於ける地球の位置を示す。イセ、イセを天球とし、イセの北極、イセを南極、イセを赤道とせば、



は、遂には、曆と季節と相合せざるに至るべし。仍て四百年毎に三回の閏年を省き、以て其の一致を計れり。



太陽は大圓周を、イセ、イセを天球とし、イセの北極、イセを南極、イセを赤道とせば、

四季とし、別に一年を二十四節に分てり。春分・秋分・夏至・冬至等これなり。是は、黄道を二十四等分して、太陽が其の分點に來りし時の氣象の状態を以て名づけたるものなり。此の他、尚、節分・八十八夜等雜節と稱するものあり。

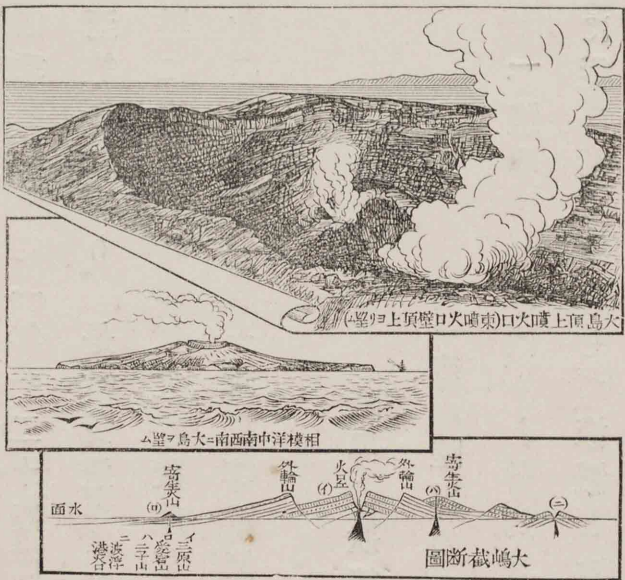
### 第五章 陸界の状態

#### 第一節 陸界の生成

一、陸界 地球は、もと熱灼せる瓦斯體なりしが、年を経るに従ひ、漸次冷却して、液體となり、固體と變じ、遂に其の外側に、各種の岩石より成れる、地殻と稱する部分を生ずるに至りしものにて、其の水面上に露出せるものを總稱して、陸界。又は陸地と云ひ、面積約地球全面の四分の一に當れり。



第十二圖  
伊豆大島の三原火山にして二重式複火山なり。



二、造山作用 地球が、地熱を放散して次第に冷縮するや、表面の地殻は、互に相壓迫して、遂に大小幾多の皺を生じ、其の大に隆起せる部分が大陸となり、陥入せる部分に水の湛えたるものが、海洋となりたるなり。かくの如く地皮の褶曲する作用を名づけて造山作用と云ひ、現今の各大陸及び島嶼は、皆此の作用に基づきて成りたるものとす。

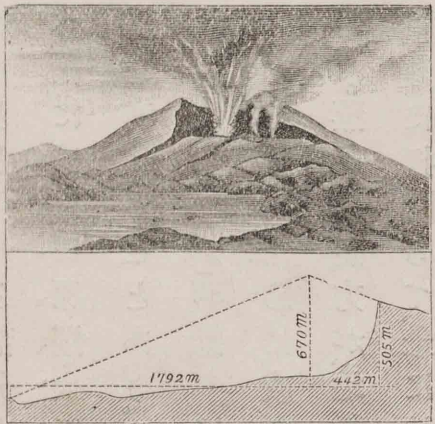
第二節 火山

一、火山の形態 陸界に

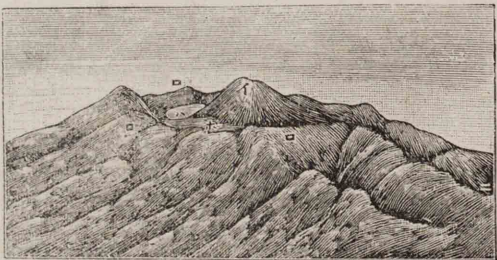
第十三圖  
火山の形態を示す模型圖  
(榛名山頂)

- イ 火山丘
- ロ 外輪山
- ハ 火山原湖
- ニ 火山原
- ホ 火山瀨

第十四圖  
明治二十一年七月十五日爆裂せし磐梯山の圖にして點線は山の舊形を示す。



は、造山作用に因りて成りたるものの外、更に火山なるものあり。火山は、其の形概ね、(一) 缺尖圓錐状をなし、麓に裾野と稱する原野を有すること多し。彼の白扇倒に懸る富士山の如きは、其の好例とす。(二) 然れども、又、阿蘇火山、三原火山等の如く、複雑なる形態をなせるものあり。前者の如きを單火山と云ひ、後者の如きを複火山と云ふ。複火山の頂邊には、舊火山口の外、新なる火山口を有し、又、火山丘、外輪山、火山





水が蒸気となる時は、其の容積凡そ一千七百倍となる。

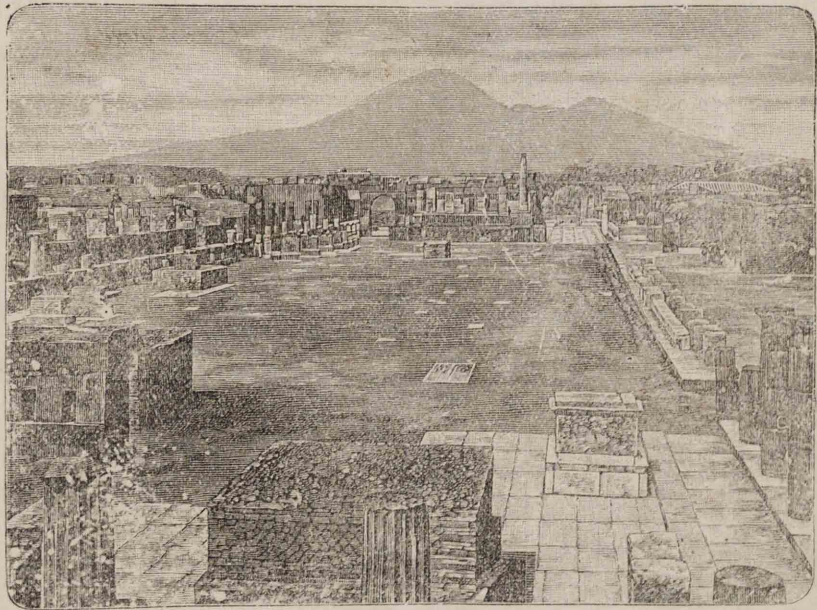
第十五圖

西曆七十九年八月ベスピオ火山の泥流のために埋設せられたるポンペイ市街の發掘せられたる景。

原などと稱する部分を具へ、稀には、火口、原、湖、火口瀨等を有することあり。

二、火山の活動 には、

- (一) 地熱のために成りたる水蒸氣の張力が、地殼の壓力に打勝ちて、急に地殼を破りて爆裂せる場合と、
- (二) 地下の岩漿が地殼の弱所を求めて迸發せる場合とあり。前者の例は我國に多く、後者の例は、布哇の



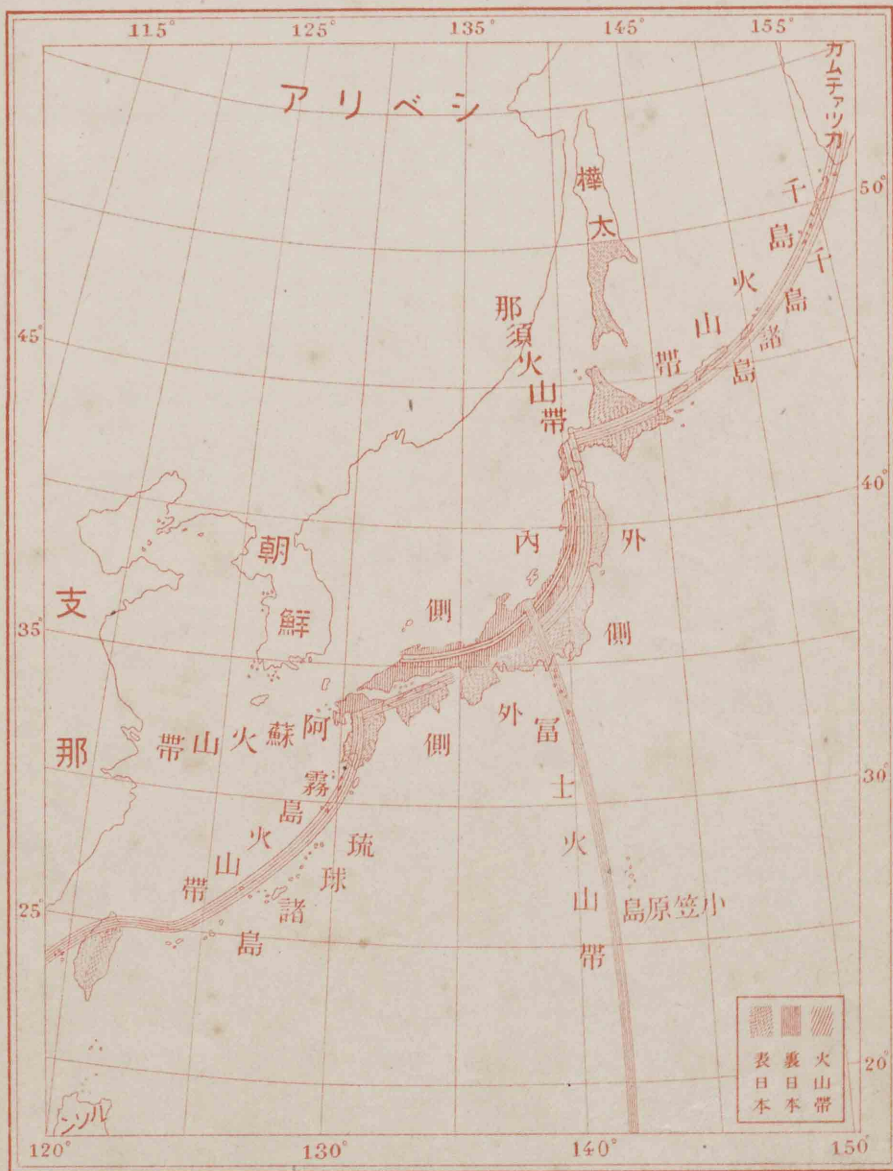
圖布分震地び及山火



地在所山火 地布分震地



圖 脈 山 火 ノ 邦 本



浮石は最も多く  
瓦斯體を含みし  
熔岩の凝固せし  
例なり。

海底に噴出する  
火山を海底火山  
といふ。明治三  
十五年八月島島  
噴火の際、全島  
附近の海底に之  
を見たり。

キラウエア山の如き之なり。

又、火山の噴出物は、水蒸氣を主とし、其の他種々の瓦斯體  
泥流、熔岩等なり。熔岩は、最初迸發せし際には、流動體をな  
せども、次第に凝固し、其の含める氣體のために、表面は鑛滓  
狀をなし、内部は浮石の如く空隙に富めるもの多し。又、火  
山活動の際飛散せるものには、火山彈、火山礫、火山灰等あり。  
火山は、其の陸上たると海底たるとを問はず、地殼の弱點  
多き所に分布せり。火山分布圖に就きて、其の配列の狀を  
知るべし。

三、火山の餘勢 火山活動の餘勢として、(一)種々の氣體  
を噴出する所あり。之を噴氣孔とす。噴氣孔には、蒸氣孔、  
硫氣孔、炭酸孔等あり。箱根大涌谷の如きは、硫氣孔の一例な



温泉の實例如何。

第十六圖 箱根大涌谷噴氣の景。

近時長崎縣温泉岳西麓の小濱村に人工鑿井の間歇泉を成せるもの發見せられたり。



り。(二)温泉も亦、火山の餘勢と見るべきものにして、單純泉と鑛泉との二類あり、鑛泉には、又、硫黄泉、食鹽泉、アルカリ泉、鐵泉、炭酸泉等あり。温泉中、時を定めて噴出する熱海温泉の如きを間歇泉といふ。

のを單純泉と稱し、多量なるものを鑛泉又は療養泉といふ。左に鑛泉の療養上の主效を畧記すべし。

- 一、硫黄泉 レウマチス及び各種慢性皮膚病に效多し。
- 二、食鹽泉 消化器及び皮膚の新陳代謝を活潑ならしむ。
- 三、アルカリ泉 消化不良又は各種カタルを癒す。

四、鐵泉 貧血病者、月經異常者に宜し。  
 五、炭酸泉 胃腸の働きを盛ならしむ。病後恢復期によし。

火山概括表		火山概括表	
形	缺尖圓錐狀 單火山 複火山 二重式 三重式	成	爆 裂
態	火口丘 外輪山 火口原 火口原湖 火口瀨	噴出物	水蒸氣・其他の瓦斯體・泥流・熔岩等の噴出及び、火山彈・火山礫・火山砂・火山灰等の飛散
活	迸 發	噴氣孔	硫氣孔 蒸氣孔
動		餘	單純泉 鑛泉
勢		温	硫黄泉 食鹽泉 アルカリ泉 鐵泉 炭酸泉

第三節 地震

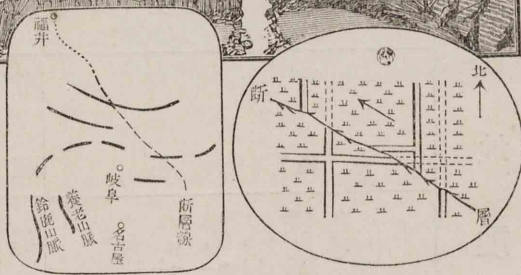
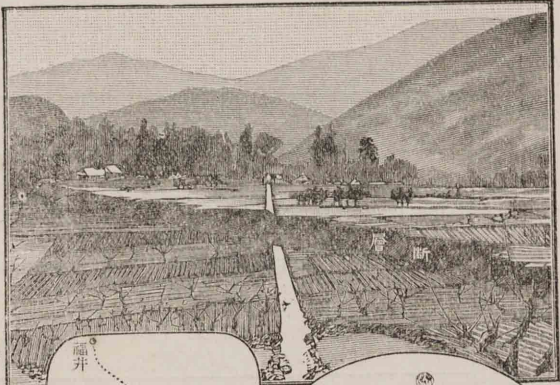
一、地震の原因 (一)火山の活動に因りて起れる地震を、火山地震と云ひ、其の震動あまり大ならず。磐梯山破裂の時



第十七圖

明治二十四年十月濃尾地震の際、美濃根尾谷に生じたる斷層を示す。

圖中の道路中斷して二段となれる所は、もと一平面なりしなり。又右下の圖は一方の耕地が矢の方向に移動したるを示し、左の圖は斷層の位置を示す。

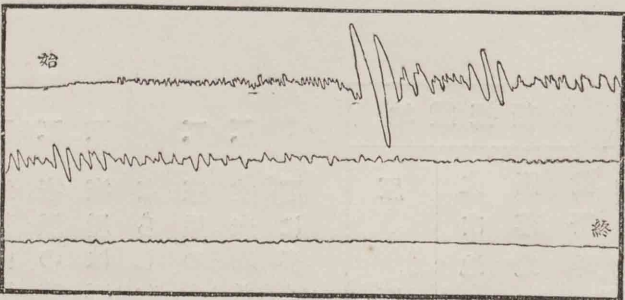


の如きこれなり。(二)土地の陥落に因りて起れるものを、**陥落地震**と云ふ。明治三十一年の有馬の地震の外、我國には其の例少し。又(三)地殻の斷層に因りて起れるものを、**斷層地震**(又地<sub>上</sub>震)と稱し、其の震動概して強大なり濃尾大地震の如きは、其の好例なり。  
二、地震の性状 地殻震動の状態は、極めて複雑なりと雖も、分ちて**上下動**、**水平動**の二者となすべし。又、地震の起るや、先づ**初期微動**あり、次で**主要動**となり、後に**終期動**

第十八圖

地震計に現はれたる地殻震動の圖

實動の約三倍にして、初めの小波動は初期微動、中部は主要動、終は終期動なり



となる。又、烈震の後には、引き續き餘震を起すことあり。  
地震は、又、其の強さに因りて、通例次の四種に別つ。

- (一)微震 靜坐せる人若くは特に注意せる人にして、始めて感知し得るもの。
- (二)弱震 戸障子鳴り、垂下物の動搖明なるもの。
- (三)強震 石塔石燈籠等の顛倒、古き家屋煙突等に破損を生ずるもの。
- (四)烈震 家屋を倒し、地盤に變動を起し、震動最も激烈なるもの。

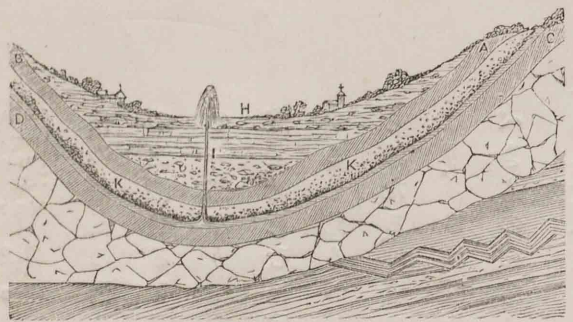
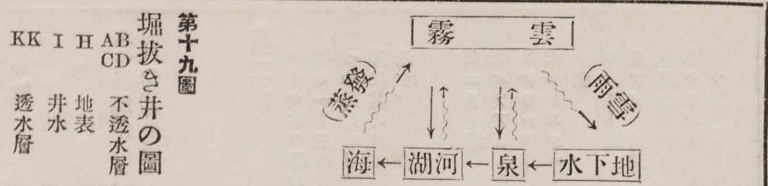
地震は、火山脈に當れる地方、又は、地殻の弱點多き地方に多し。我國及び南米大陸の西岸、伊太利地方等の如きは、有名なる地震帶とす。又、一般に夏季に多く、冬季に少し。



三、震災の輕減法 強烈なる地震の災害は、實に恐るべきものなれば、左に震災輕減に關して、注意すべき二三の例をあげべし。

- 一、地盤強固にして、懸崖、河湖堤防等に接せざる敷地を選むべし。
- 一、家屋の基礎を十分堅固ならしむべし。
- 一、家屋は平家造にして、成るべく屋根を軽くし、且全體の構造を均等ならしむべし。
- 一、家屋の全形は成るべく櫛形コシガタを可とす。
- 一、丈夫なる柱を成るべく多く用ゐ、且穴を穿つを避け、又柱と柱との間に多くの對角線の堅材を入るべし。

地震概括表		性		状		震災輕減法
原因	震動の方向	震動の順序	強さ	強さ	強さ	
火山地震	上下動	初期微動	微震	強震	強震	敷地を選む 基礎を強固にす 平屋造とし屋根 を軽くす 櫛形を可とす 柱を多くし、對 角線の材木を用 ゆ
陥落地震	上下動	主要動	弱震	強震	強震	
斷層地震	水平動	終期震	烈震	強震	強震	



第四節 水・大氣及び生物の作用

一、水の循環 河海其の他の水の蒸發せる者、冷縮する時は雲となり、時に、雨雪となりて地表に降下し、一部は地中に入りて、地下水となり、更に泉となりて地表に湧出し、集りて河となり、海に注ぐ。かくて、水は地殼の内外を循環し、其の間絶えず、種々の作用をなす。

二、水的作用 水には、雨水・河水・湖水・海水・地下水・氷・雪・水蒸氣等あり。其の陸地に對する作用次の如し。

- (一) 破壊作用 (又侵蝕作用) (イ) 器械的破壊作用 (ロ) 化學的破壊作用



『雨だれ石を穿つ』

水の溶解作用如何。(理科参照)

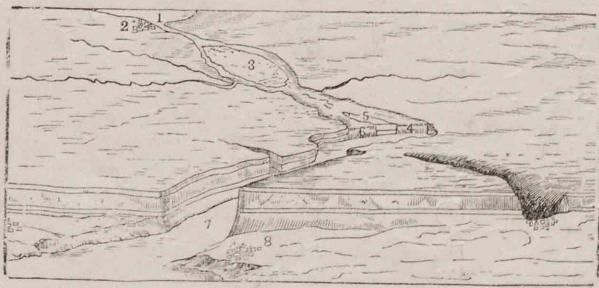
第二十四圖  
ナイヤガラ瀑は年々一三呎位づつ退却せり。圖は其の退位を示す。

1. エリー湖
2. バファロー市
3. クラウド島
4. ホースシュー滝
5. ゴート島
6. アメリカ流
7. 最古の瀑口
8. クインスタウン(市)

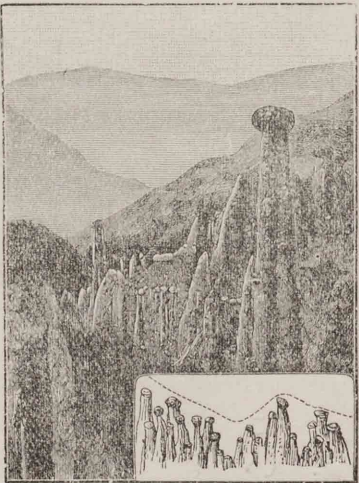
(二)運搬作用(又流送) (三)建設作用(又堆積)

彼の、雨後の濁流一杯を、コップに盛りて之を放置すれば、其の底に泥土の沈澱せるを見るべし。これ、雨水の爲に、器械的に破壊されたる地表の一部なり。次に、其のコップの上部の澄みたる水を、別器に移し、徐に蒸發せしむれば、又、其の器底に若干の固形物を存するを見るべし。これ、即ち、化學的に水に溶解せられたる、地表の可溶性物質の、再び分れ出でたるなり。されば、雨水の破壊作用も亦、實におどろくべきものにあらずや。

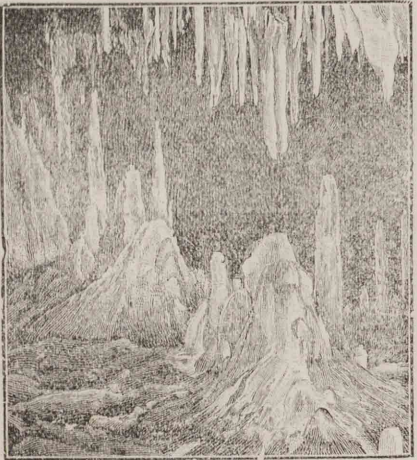
水の破壊作用によりて、成れるものには、土柱・峽谷・深淵・瀧壺・河成段丘・山崩れ等あり。又、鐘乳洞(石灰)は、地下水の爲に作られたるもの、北米の五大湖及び、北歐の諸湖の如き



第二十一圖  
アルプス山中チロル州に在る土柱。



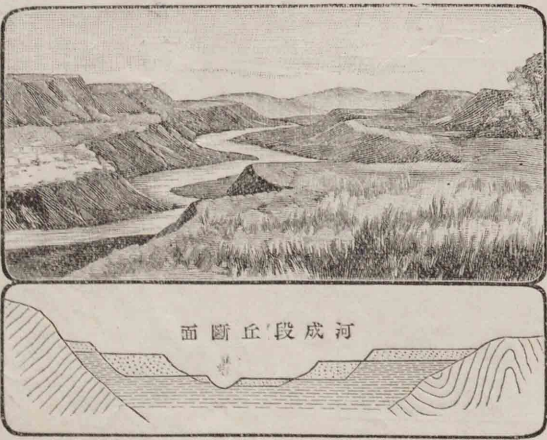
第二十二圖  
河成段丘と其の断面を示す。



第二十三圖  
石灰洞の内部の圖  
上部より垂下せる鐘乳石と云ひ、下部にある石筍と云ふ。

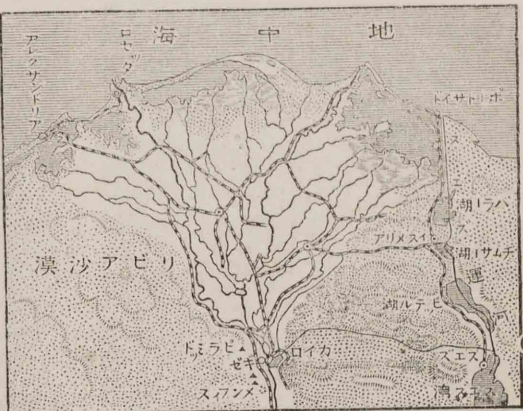
は、概ね、氷河の破壊作用によりて作られたるものとす。

水の爲に破壊せられたる岩石は、流水によりて次第に下流に運搬せられ、遂に、沈積して、茲に、新なる地層を築造す。





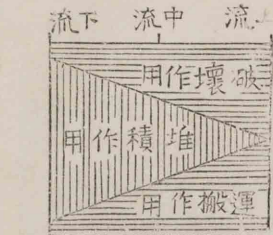
第二十四圖  
ニール河口の  
三角洲圖  
南北約百哩餘、  
東西約百四十哩  
許あり。



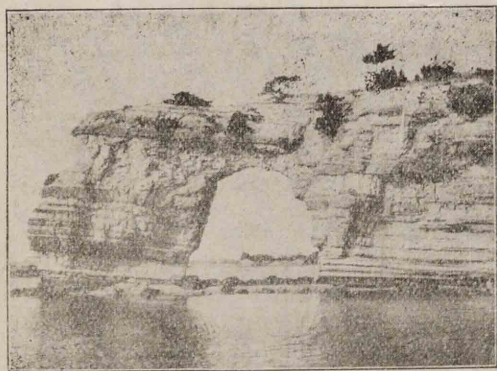
これ即ち、世界各地の河口に、著しく三角洲の發達せる所以にして、木曾川・淀川・ニール河等の下流に其の適例を見る。

三、大氣の作用 (一) 大氣中の酸素

第二十五圖  
松島材木島の  
奇景にして、  
海水の侵蝕作  
用を示す。

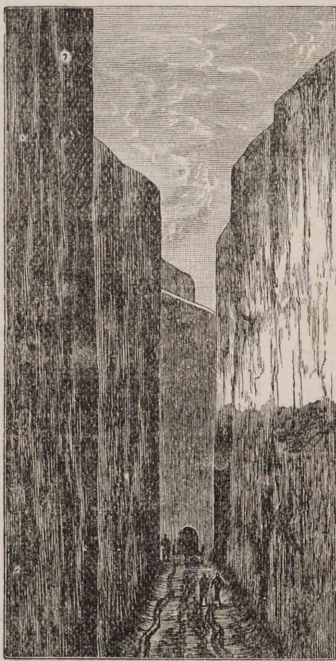


石を分解して、遂に土壤となす。この作用を風化作用といふ。(二) 大氣は、又、其の運動即ち風に



第二十六圖  
河水の作用を  
示す模式圖

第二十七圖  
清國河南地方  
に見る所の凹  
道を示す。



よりて、運搬及び建設の作用をなすこと、恰も河流に似たるものあり。

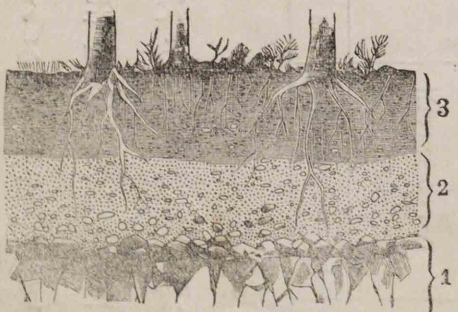
海岸にて、しばしば見る所の、砂丘及び北支那

地方の黄土層の如きは、砂塵の推積して成れるものなり。

四、生物の作用 生物の地殻に對する

作用は、水又は大氣の如く著しからずと雖も、又、破壊と建設との二作用あり。(一)

植物の根が、漸次岩石の割れ目に侵入して、遂に、其の岩石を崩壊し、むぐら・蚯蚓等



第二十八圖  
植物の根より  
分泌せらるゝ  
酸類等により  
て、岩石の次  
第に靈爛せら  
るゝを示す。  
1. 堅硬なる岩石  
2. 多少靈爛せら  
れたるもの。  
3. 全く爛霧せら  
れたるもの。  
(亞土壤)  
(土壤)



が地を掘りて之を軟にし、其の分解を助くる等は、生物の破壊作用なり。(二)又、石炭層及び珊瑚礁は、生物の建設せる所にして、石炭は、植物體の地下にて炭化したるもの、珊瑚礁は珊瑚蟲の分泌物より成れるものなり。

水・大氣及び生物の作用に及ぼす諸作用の概括			
作用の種類	水の作用	大氣の作用	生物の作用
破壊作用 器械的 化學的	土柱・深淵・瀧壺・峽谷・河成段丘・山崩れ・石灰洞等	風化作用	植物の根等が岩石を割ること
運搬作用	流送すること	吹き送ること	
建設作用	三角洲	砂丘 北清の黄土層	石炭層 珊瑚層

第五節 地相の成因

一、山及び谷

(一)山嶽には、内力の作用、即ち、地熱の働によ

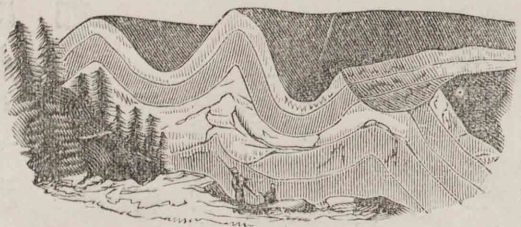
山岳の成因

- (一) 褶曲
- (二) 逆發
- (三) 斷層
- (四) 水蝕

第二十九圖

フランス東部のユラ山脈の一部にして褶曲山の構造を示す。

縦谷横谷の實例如何。



りて成れるものと、外力の作用、即ち、水・大氣及び生物等の働によりて成れるものとあり。内力作用に因りて成れるものには、褶曲山・逆發山及び斷層山あり。

外力の作用に因りて成れるものには、水蝕山あり。然れども、何れも其の成因は單純ならずして、諸種の成因相伴へるものとす。

彼の妙義山の如き、元來、内力作用に因りて成りしと雖も、其の後、著しく風化及び水蝕等外力の作用を受けて、遂に、現今の如き多數の奇峰となりたるなり。

(二)谷にも、又、褶曲谷・水蝕谷・斷層谷及び火山の裾野と裾野との間に成れる裾合谷などあり。又、谷の方向が、山脈の軸線と同方向なる時は、縦谷と云ひ、之を横ぎれ



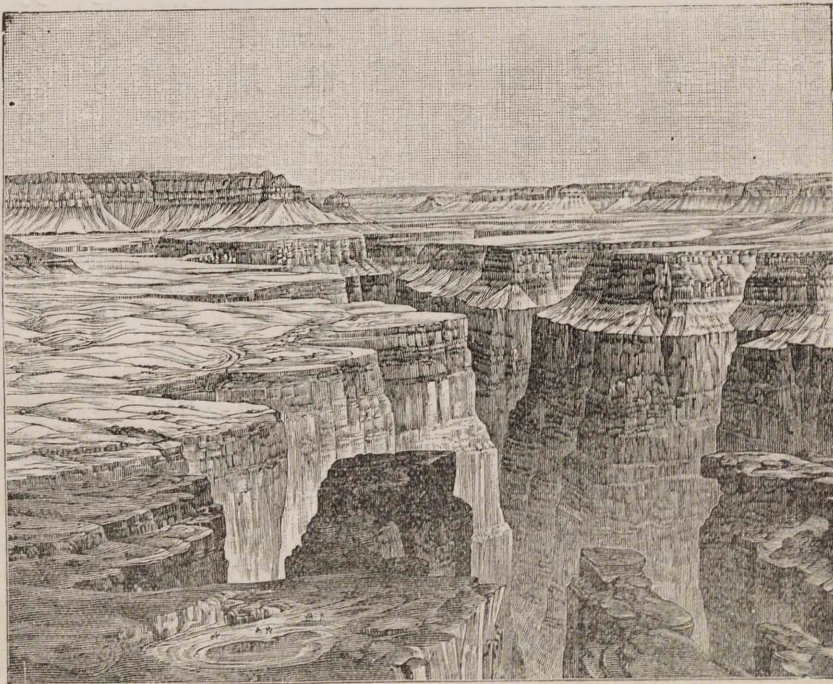
第三十圖

北米コロラド地方の侵蝕谷及び侵蝕臺地の景。

其の峽谷の長大なるものは長さ三百哩、深さ三千呎に達せり。

る時は、横谷と云ふ。  
三、湖沼 其の成因によりて別てば左の如し。

- 一、火口湖 噴火口に水の溜りしもの(蔵王山五色沼)
- 二、火口原湖 火口原に水の溜りしもの(蘆の湖)
- 三、河迹湖 河道の變遷の爲に成りしもの(印旛沼)
- 四、海迹湖 海底の隆起によりて成れるもの(カスピ海)



第三十一圖

甲府盆地の圖

この盆地の如きは湖底の乾面となりたるものなり。



(サロマ湖)

起によりて成れるもの(カスピ海)  
五、堰塞湖 火山噴出物の堆積に因りて作られたるもの(中禪寺湖)

六、陷落湖 地盤の陷落せし爲に成りしもの(琵琶湖)  
七、澤湖(潟) 風と波との爲に、海岸に作られたるもの

第三十二圖

諏訪湖(堰塞湖の一種)附近の地形の變遷を示す。

八、氷河湖 氷河の侵蝕作用と堆積作用との爲に成りしもの(北米五大湖)  
湖水の作用 湖水は、河水の濁流を湛え、その沙泥を沈澱して、これを清浄ならしめ、或は洪水を呑みて其の水害を調節す。又、水生物の繁殖を助け、地方の氣候を調和し、航行の便を供し、時としては鹽類を沈積するものあり。湖沼の水、乾涸する時は盆地となる。

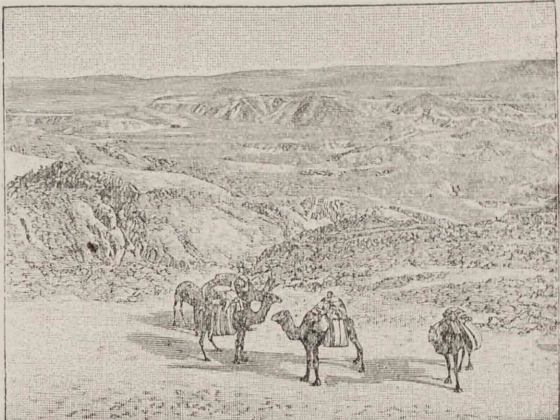
三、平地 は、河流其の他の作用によりて、土砂の堆積して成れるものなること





地相の成因一覽表を作れ。

第三十三圖 サハラ砂漠の景。



は、既に前章にも述べたる所の如し。又、某地域に於て降雨なき時は、遂に砂漠を生ず。

四、本邦風景の標式 凡、土地の風景は、本來の地相の上に、空氣・水等の作用を受けて、一層奇を加へ美を増すものなり。今、本邦風景の標式とすべきものを擧ぐれば、次の數種を得べし。

一、富士式 此れ所謂「白扇倒懸東海天」の風景にして、缺尖圓錐狀の山高く聳え、廣き裾野をめぐらし、火山の好標式となるべきものにて、國內所々に之に似たる風景を見るを得べし。

二、武藏野式 平野の標式とすべきものにして、所謂「月の入るべき山」も

なき廣き平野の光景とす。武藏野(關東平野)・濃尾平野等は、之に入るべきものなり。

三、妙義式 群馬縣の妙義山を標式とするものにて、集塊岩地の著しく、空氣・水等の爲に侵蝕せられて、奇巖怪石の群立せる奇景とす。此の類例も所々にあり。

(附) 耶馬溪式 妙義式の風景に、河水の奔流を添えたるもの之なり。四、日本アルプ式 日本アルプ山脈、即ち、飛驒山脈を標式とせるものにして、高山深溪相參差し、人をして宏壯雄大の感を起さしむるが如き山谿之なり。

五、中國山脈式 中國山脈の如く、あまり高峻ならざる、鈍圓形の山丘の風景を指すものにして、阿武隈山脈北上山脈の如きは、この類に入るべきものなり。

六、九十九里濱式 千葉縣九十九里濱の如く、單調にして變化に乏しき、直線狀の砂濱連り、漁村の點々たる寂しき風景を云ふ。

七、瀬戸内式 瀬戸内海を標式とせるものにして、海岸の出入に富みて、

日本アルプとは、英人チアン・パレン氏の命じたる所にして、其の山容のヨーロッパ、アルプに似たるに因る。



良港多く、海は恰も泉池の如く、島は恰も水禽の浮べるに似て、所謂瑠璃板上に珠玉を轉じたるが如き景色を云ふ。

### 第六章 海洋の状態

#### 第一節 海面及び海底

一、海面 地殻の凹所に湛えたる水を總稱して、**水界**（水）と云ひ、其の表面の大部分は海面にして、地球全面積の約四分の三を占め、陸界の約三倍に當れり。海面には、其の大小形状によりて、**大洋**・**海**・**港**・**灣**・**海峽**・**縁海**・**内海**等の名あり。

二、海の深さ 海底には凸凹あるが故に、海洋にも自から深淺あり。其の最深處は、北太平洋グアム島の南方にありて、約九千六百米突に達せり。我、千島の近海に存する、有名なるタスカロラ海床は、其の最深點八千五百十五米突なり。

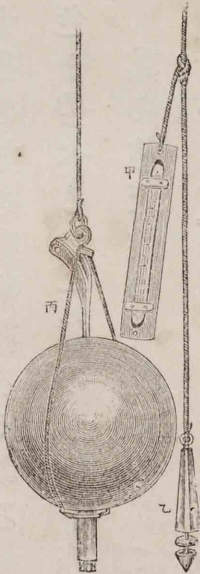
亞洲	九五〇米
歐洲	三〇〇
阿洲	六五〇
北米	七〇〇
南米	六〇〇
澳洲	四〇〇
平均	七〇〇

タスカロラ海床は富士山の高さの二倍以上の深さなり。

第三十四圖

海深測量器

甲は水溫計乙丙は重錘



又、各大洋の平均深度は、三千六百米突にして、陸地の平均高度の約五倍に當れり。

三、海底 (一) 其の地形は、陸

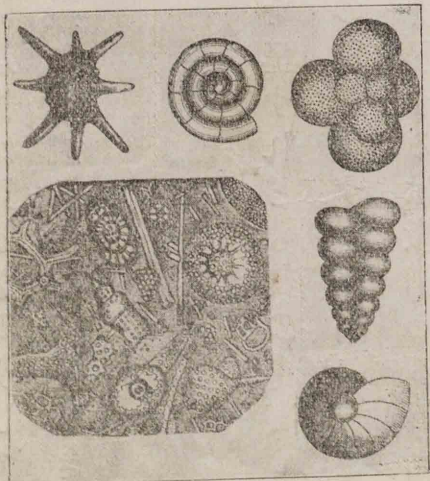
面に見るが如き急峻なる變化を有せず、概ね、ゆるやかなる波状をなして、起伏せるのみ。こ

れ陸面に比して、侵削作用を受くること少きによる。(二) 海底の地

質は、所によりて同じからず。陸

地に近き所にては、陸上より來れる砂泥及び貝類の殻片等を沈積

すれども、海岸より約七十五里以



第三十五圖  
海中の多孔蟲及び海底の軟泥を示す。  
實大の三百倍乃至四百倍。



上の所に至れば、最早陸上よりの流送物は見るを得ずして、主として、微細なる海生動物の介殻より成れる石灰分多き白泥を沈澱せり。

第二節 海水の性状

一、海水の色 海水は、概ね藍色を呈すれども、其の含有せる鹽分の多少によりて、色に濃淡の別を生ず。黒潮の濃藍色は其の例なり。又、黄海の黄色を呈するは、微細なる黄土を含むによる。又、時として、夜間海面に燐光を認むるは、夜光蟲の如き動物在るによる。彼の紅海の南部の海水が紅色を帯べるは、一種の赤色下等生物の生存するによるなり。其他天候の状況によりて、海面の色に變化を及ぼすこと少からず。

海水の鹽分は凡百分の二乃至四を普通とす。

海水の色

- (一)物質の混入による。
- (二)海底の地質による。
- (三)天候の状況による。

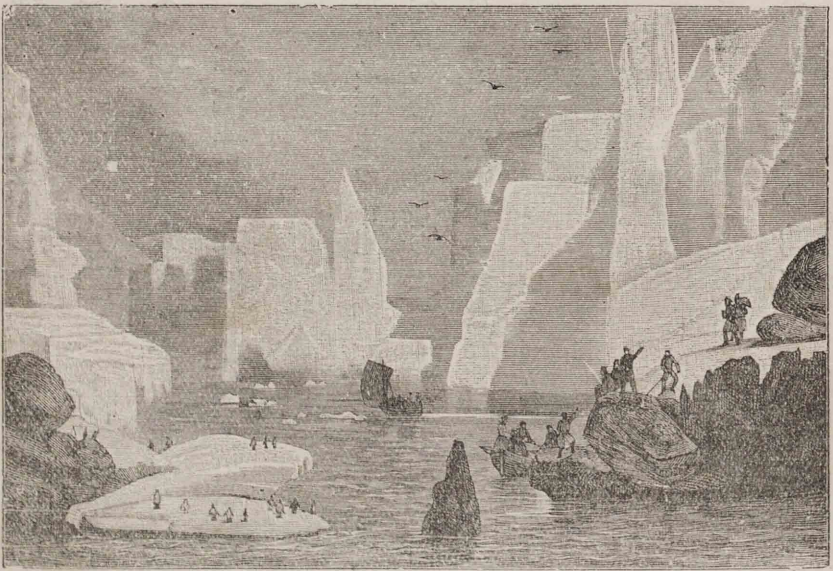
海水の温度に差ある所以如何。

二、海水の温度 は、陸面の温度の如く、著しき變化なしと雖も、緯度の高底と、海洋の深淺と、季節と、海流とによりて、差違あり。

緯度低く、海淺き、夏の暖流の温度は最も高く、時としては攝氏二十五度内外に達することあり。之に反する海水の温度は頗る低く、極圈附近に至れば殆んど零度に下る。

三、氷原・浮氷・冰山 高緯度海面の氷結して、厚層をなせ

第三十九圖 南極地方の大冰山を示す。氷上に遊べるはペンギン鳥なり





氷の水面に現は  
れ居る部分は、  
水中に没せる部  
分の約七分の一  
乃至九分の一  
なり。

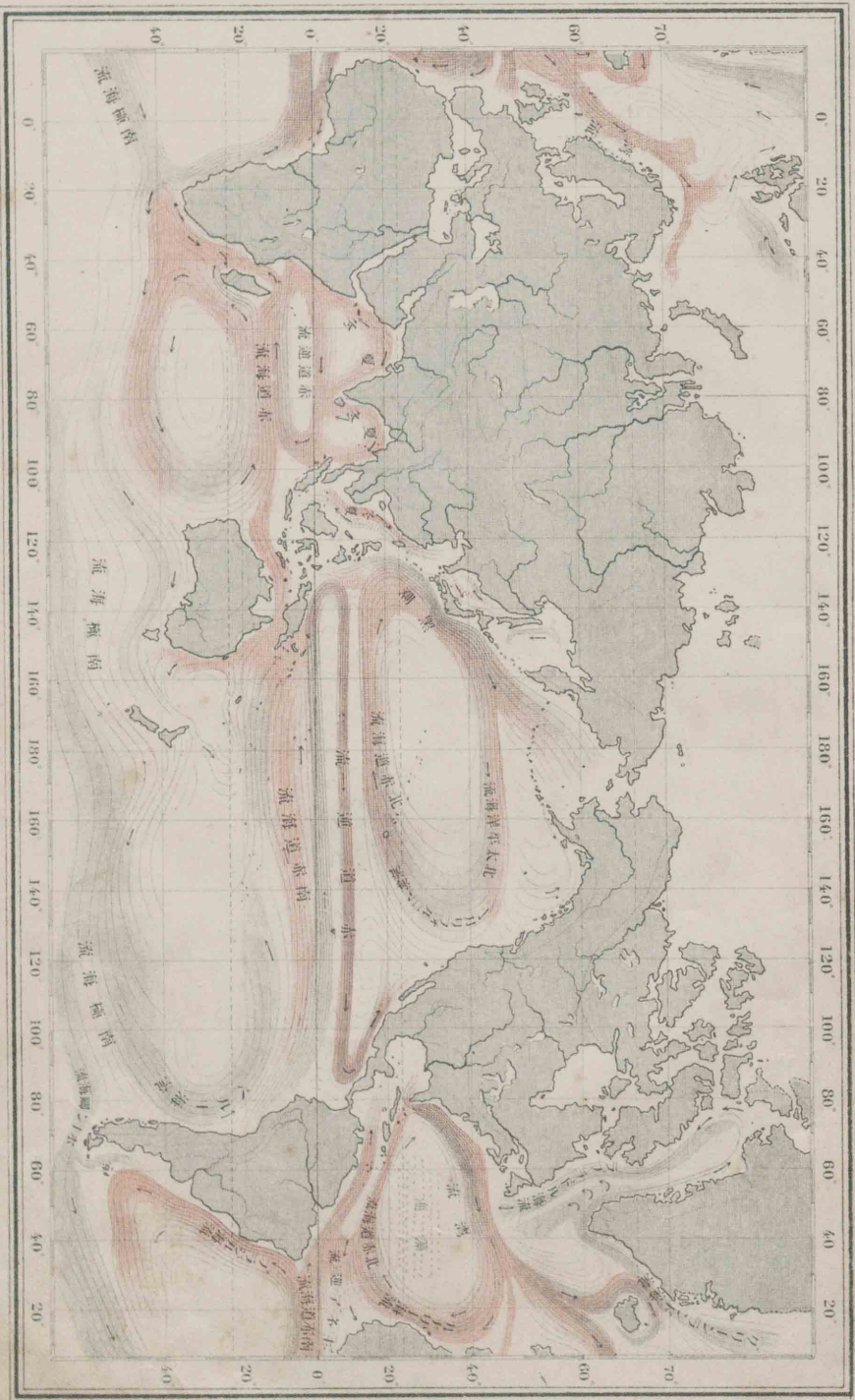
るものを氷原と稱し、其の一部分の破碎して、流出せるものを浮氷と稱す。又、陸地の氷河の一端の分離して、海上に浮流せるものを冰山と稱し、其の形態頗る大きく、全體の高さ、數百米突に達するものあり。航海者の大に恐るゝ所のものなり。

海水の作用 海面廣大なるがため、海水の作用も亦一層大なりとす。その最も著しきは、大氣中に水分を供給すると、海流によりて、氣候の調和をなすと、食鹽を供給するにあり。又、海水の侵蝕作用も頗る大なるものにして、江の島の岩窟、松島の奇景の如きその例なり。(第二十二圖七圖)其の他、海生物の棲息所となり、生物の傳播を助け、航海の自由を供する等、其の用甚だ多し。

### 第三節 海水の運動

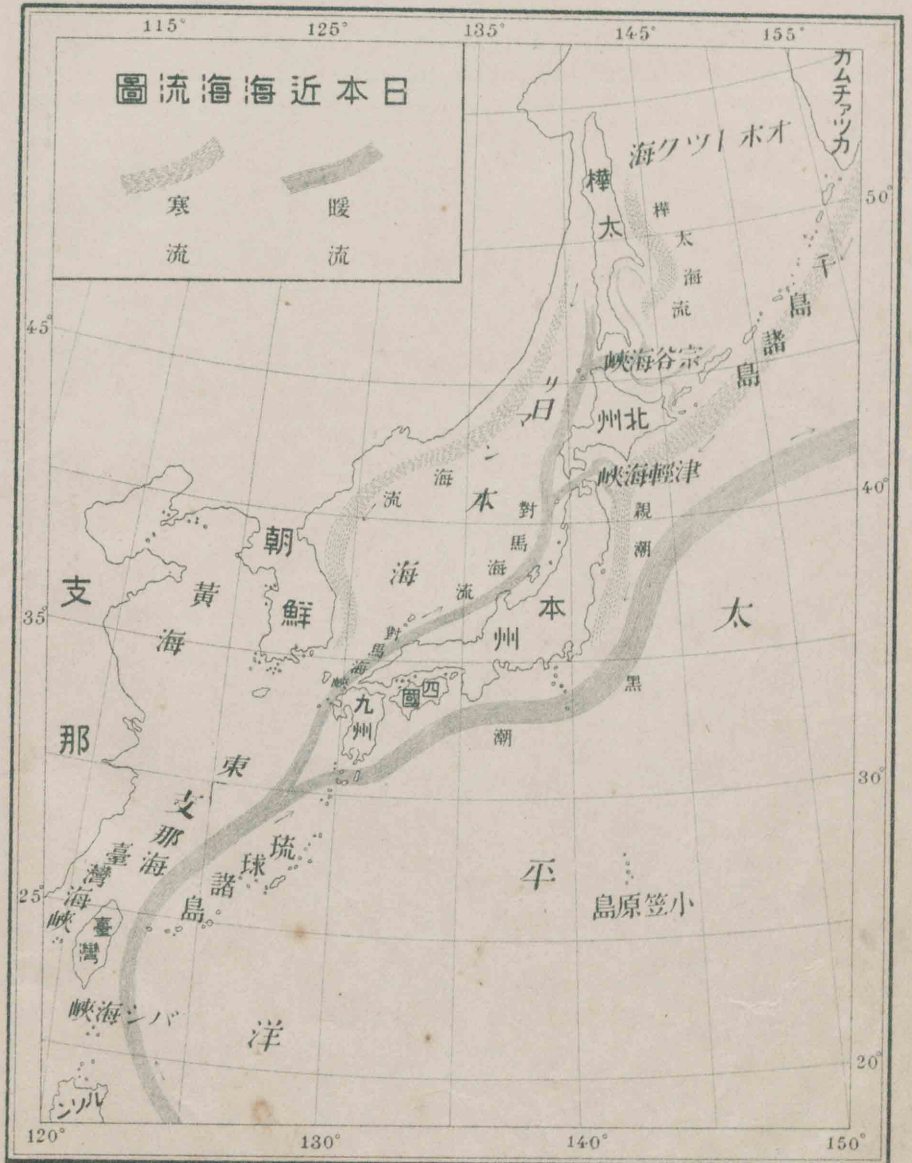
一、波浪 とは、風の爲に起れる海水の動搖を云ふ。風、軟

世界海流圖



流寒 流暖 別色打流海





日本近海流圖

音波と波浪との  
差異を比較せ  
よ。(理科参照)

第四十一圖  
波の説明。

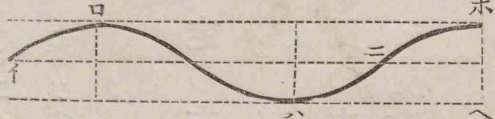
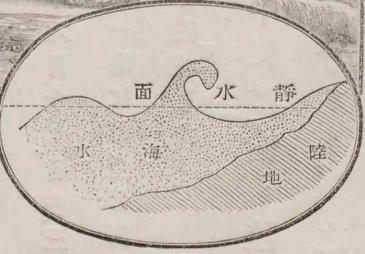
イロハニ 波長  
ロハニホ 波谷  
ハ……………波丘  
ロホ……………波高  
ホ……………波高

波浪は前進すれ  
ども、水は前進  
せず。

第四十二圖  
駿河灣靜浦の  
磯浪の景及び  
海岸における  
大波浪の断面。

かなる時は漣シヅメ波徐ホに來り、風暴るゝ時は激浪を起す。波浪の動くや、其の高低の變化甚しきが如く見ゆれども、其の實、波高は二十米突、波長は波高の二三十倍を越ゆることなく、又、其の動搖は、深さ百尋以上に至ることなし。

波浪の海岸に近づ



くや、海底は次第に淺くなるが故に、其の下部は、之が爲に防げられて、上部と運動を共にするを得ず。遂に、其の上部のみ前進して、海岸に並行して前に

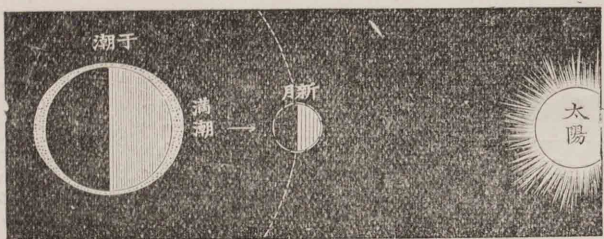


倒れ、碎けて高く白沫を飛散す。之を磯浪と稱す。  
三、津浪 暴風、地震、又は、火山の破裂等によりて起れる大波浪を、特に津浪と稱し、人畜に及ぼす災害測るべからざるものあり。

明治二十九年六月十九日夜、三陸の沿岸を襲へる津浪は、波の高さ二十五米突に達し、一時に百里の海岸を浸し、立どころに人命二萬を奪ひ、家屋壹萬三千を破壊したり。

三、海流 海中には、恰も陸上の河の如く、絶えず、一定の方向に流動する部分あり。之を名づけて海流(洋流)と云ふ。其の起因は種々あれども、主として、一定の方向に吹く風の力に因るものにして、其の赤道地方より流出するものを暖流と稱し、極地方より流れ来るものを寒流と稱す。

第四十三圖  
大高潮及び大  
低潮を示す。



世界海流圖に就きて主なる暖流及び寒流の名稱位置、方向等を知る可し。北半球の暖流は、時針と同方向に進み、南半球は之に反す。

日本近海の海流 わが近海の暖流は、黒潮(又日本海流)を主なるものとし、其の別れを對馬海流と稱す。又寒流にては、千島海流(又親潮)を主なるものとし、別に樺太海流、リマン海流の二寒流あり。共に、我國の水産及び氣候上に影響すること少しとせず。(圖參照 第四十三)

四、潮汐 波浪及び海流の外、毎日二回づつ海水の昇降あり。其の最も昇れる時を満潮(又さし潮)と云ひ、最も降れる時を干潮(又引き潮)といふ。満潮・干潮共に新月・満月の際に著しく、上弦・下弦の頃には甚しからず。前者を大潮



と云ひ、後者を小潮と稱す。  
 潮汐は、月と太陽との地球上に及ぼす引力によりて起るものにして、殊に、月は地球に近きを以て、其の引力は、太陽の引力の二倍以上に當り、従つて其の影響最も著し。

海水の運動				
種類	起因	摘要		
波浪	風	波浪は前進すれども水は前進せず。其の動搖は百尋以下に及ばず。磯浪は常に海岸に並行す。	津浪	暴風・地震等
海流	風其他	暖流・寒流の二種あり。 氣候・水産物等に影響する所少からず。	潮汐	月及び太陽の引力
		往々人畜に非常なる損害を及ぼす。		毎日二回づつ漲落す。新月・満月の時には大潮。上弦・下弦の時には小潮。航海上に關係多し。

第七章 氣界の状態

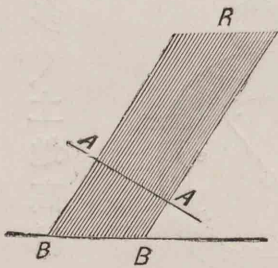
第一節 氣温及び氣壓

第四十四圖  
 太陽の光線の直射と斜射との差違を示す。

凡は太陽の光線の方向を示し、Aは直射の場合、Bは斜射の場合を示す。

氣候帶の區分を緯度によらずして、年平均等温線に基づきて左の如く分つ時は、各地の實際の氣温を知ることが得。

年平均(攝氏)  
 熱帶 二〇度以上  
 溫帶 一〇度以上  
 寒帶 一〇度以下



一、氣温の高低と等温線 (一)氣温の高低は、時と處とによりて一樣ならず。同一の場所にありても、朝と晝とは氣温を異にし、また、同一の時刻に於ても、緯度及び地面の高低、並に其の地の傾斜の度と方向(南向・北)、海岸との距離、山脈の方向等に因りて異なるものなり。(二)氣温の互に相等しき地點を、圖上に連結して作れる線を、等温線と云ひ、各地の温度を知るに重要なり。

我國の氣温 わが國は、北は寒帶に近く、南は熱帶に入り、西は大陸と接し、加ふるに、海流・風向・山脈等の影響を受くるを以て、氣温分布の狀況頗る多様なるは、櫻の花期の種類なるを見ても知らる。



氣壓は、海面上にて每一寸平方面に、約三貫五百目づつの壓力あり。(理科参照)

第四十五圖

アネロイドバロメーターの外形及び内部。

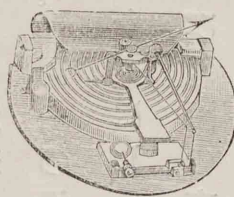
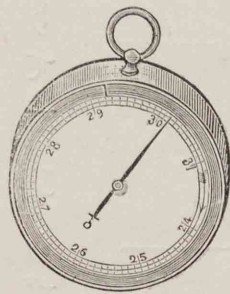
晴雨計の昇降する理由如何。

(理科参照)

土地の高さ約四〇尺位の差ある毎に、水銀氣壓計に現はるゝ差約一耗なり。

地名	薩摩	美作	東京・京都	能登	陸中	石狩	釧路
花期	三月上旬	全中旬	四月上旬	全中旬	五月上旬	全中旬	六月上旬

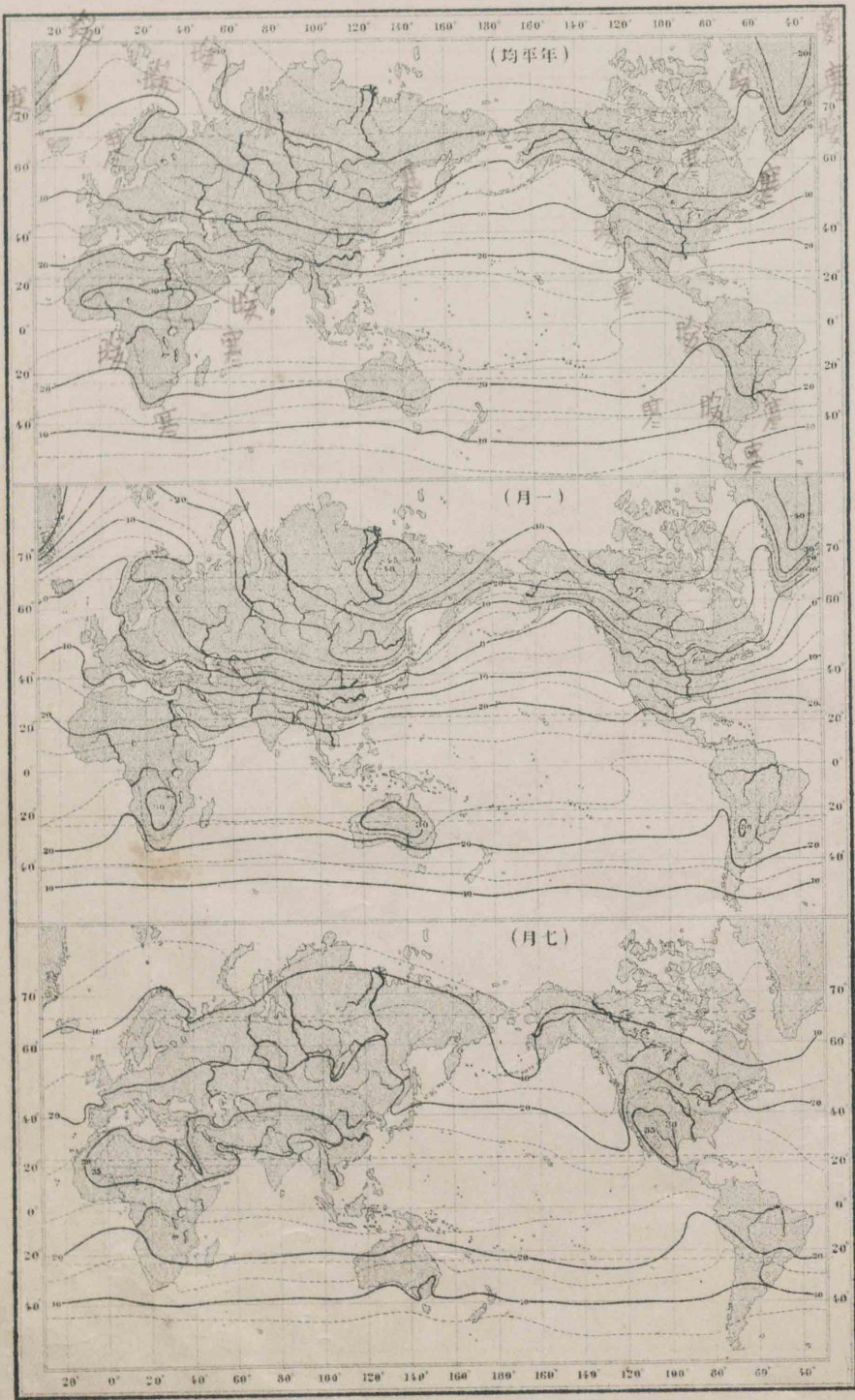
二、氣壓の高低と等壓線 (一)氣壓の高低は、氣温の高低・水分の多少、及び土地の高下によりて差あり。氣温高く、水分多く、土地高ければ、氣壓は減少し、之に反すれば増大す。



(二)氣壓の等しき地點を、圖上に連結して作れる線を、等壓線と云ふ。等壓線は、風向及び風の強弱を、豫測するに必要なるものなり。

又、氣温及び水分相等しき時は、氣壓は單に土地の高下によりてのみ變ず。故に、かゝる場合には、氣壓計晴雨計を以て、土地の高さを知るを得。

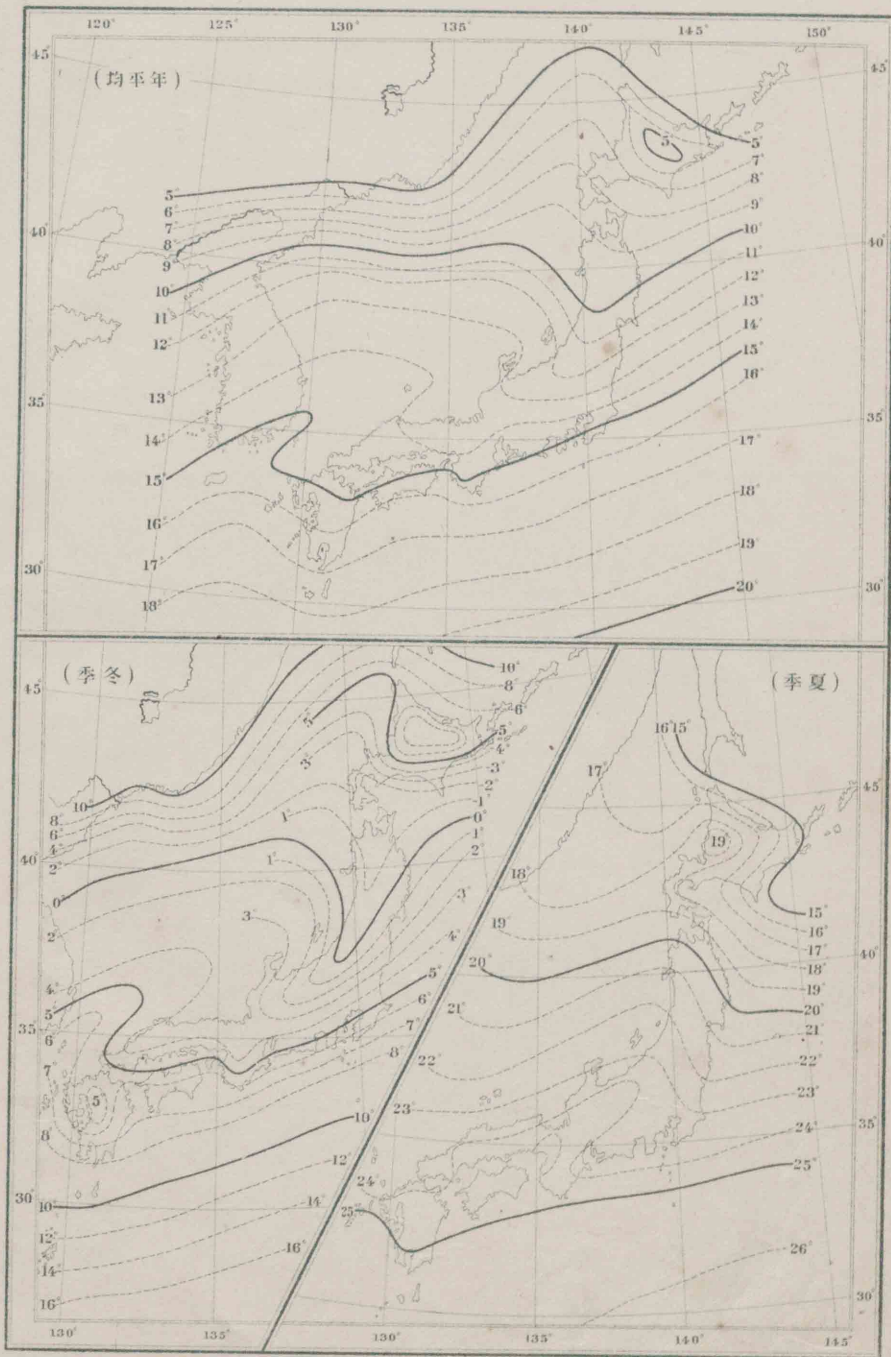
世界等温線圖



度温ノ氏攝ハ字數 線ノ度五毎 線ノ度十毎



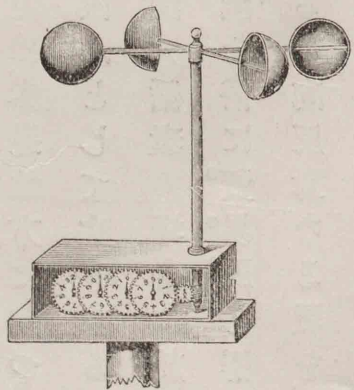
圖線温等邦本



度温ノ氏攝ハ字數 線ノ度十毎七及度五毎

第二節 風

一、風の起因及び強弱 大氣の流動を風(氣)と稱す。(一)其の起因は、高氣壓地方の空氣が、低氣壓地方に向つて流れ、兩者互に平均を得んとするにあり。(二)其の強弱は、兩地の氣壓の差に關係し、其の差愈大なれば、風力亦ますます強し。之を計るに風力計を以てす。



第五十圖 風力計の一種を示す。

風に雨雪を伴ふ時はその風歴は一層強大となる。

我國にては、風を、其の強弱によりて、左の階級に別つ。

名稱	風力	風速(一秒間) (の速度)	摘要	風壓(每六尺平方面に加) (はる大約の壓力)
一、無風(靜)	○	○	煙直上す	一貫目位より少し
二、軟風	一	一、五—三、四	風あるを感ず	一貫目位

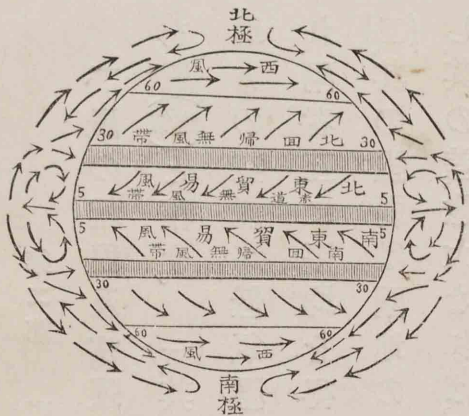


- 三、和風……………二……………三、五、九……………二十四貫目位
- 四、疾風……………三……………六、〇、九……………五、一〇貫目位
- 五、強風……………四……………一〇、一四、九……………一、一、二、四貫目位
- 六、烈風……………五……………一五、〇、一、二、八、九……………二、五、九〇貫目位
- 七、颶風……………六……………二九、〇、一、X……………樹を抜き家を倒す……………一〇〇、一、X貫目

二、風の種類

(一)貿易風

赤道地方の高温なる空氣が、上昇して兩極地方に向ふや、兩極の低温なる空氣は、更に、赤道地方に向つて、其の缺を補はんとして吹き來るべし。此の氣流大循環の場合に於いて、下層の氣流を俗に貿易風と稱し、上層に於ける方向反對なる風を、反對貿易風と稱す。



第五十一圖 氣流の大循環を示す。

我國にて冬季西北風多き所以如何。  
季節風は印度洋にては特に著し。

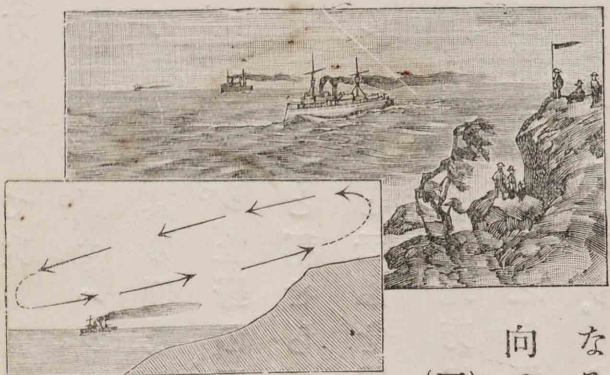
(二)季節風

とは、季節に應じて發達する風を云ふ。アジア大陸は、夏季、附近の大洋よりも、著しく高温となり、従つて、其の氣壓は、大洋方面よりも小となるを以て、空氣は、高壓部なる大洋方面より、低壓部なる大陸内部に向つて流れ、我國にては南東風多し。

(三)海陸風及び山谷風

海と陸とは、氣温の昇降に遲速あるが故に、海岸にては晝間は、大概海風(風海軟)吹き、夜間は、陸風(風陸軟)吹く。但、此の兩者の交代時には、朝風、夕風あるを常とす。又、山間には、之に類する谷風(風谷)及び山風(風山)あり。

(四)地方風 とは、名の如く、或る一地

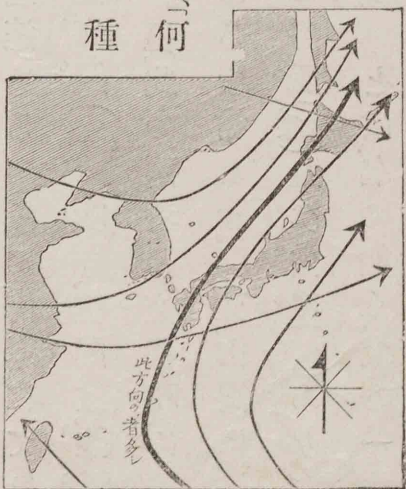


第五十四圖 海風(晝風)を示す。



第五十五圖  
我國に襲來する旋風（低氣壓中心）の主なる進路を示す。

方に限りて吹く風にして、北清地方の黃風、サハラのシムウンの如きは、其の例なり。京都の比叡、オロシ、上野の三國、オロシ等、何々オロシと稱せらるる風も、亦一種の地方風と云ふを得べし。



(五) 旋風 某地方に著しき低氣壓を生じ、其の周圍の高氣壓部より、急に之を埋めんとして大氣中に、烈しき渦流運動を起すことあり。これを旋風といふ。

年々二百十日頃、我國に襲來する暴風は、其の規模廣大なる旋風にして、其の中心は、多くはフィリピン群島若くは、マリアナ群島附近に發生して、漸次、北西の方向に向ひ、後、北東に轉じ、九州及び四國地方を過ぎ、斜に本

第五十七圖  
龍卷の圖

吾等は時として庭前に小なるツムジを見ることがあり。



第三節 大氣中の水分

一、雲及び霧 多濕なる空氣が上昇して、其の水分凝縮して、微細なる水滴、若くは、氷片となりて、高く空中に浮遊する時は、之を雲と稱し、其地面に近きものを霧と稱す。雲の種類の主なるもの左の如し。

州を横斷し、更に北に至つて消滅す。

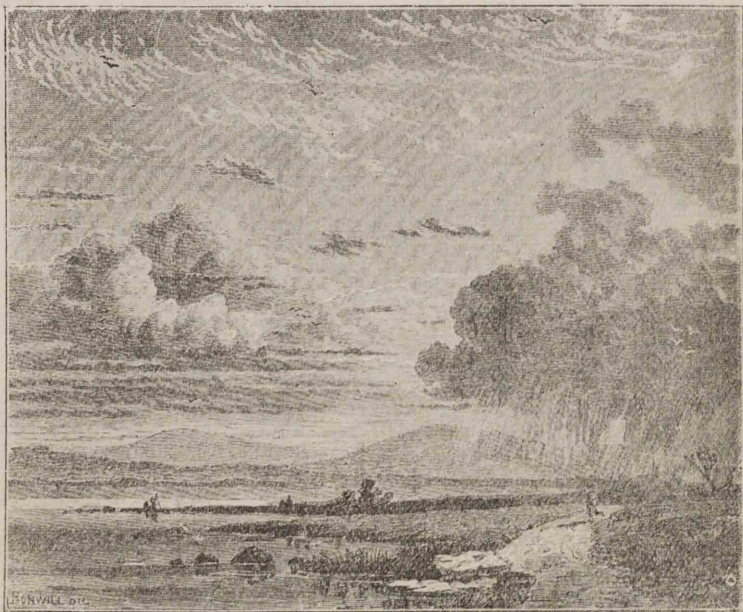
旋風の風域狹小にして、其の勢の猛烈なるものを、ツムジと稱す。ツムジは屋根を發き、巨樹を抜き、又は、水を巻きあげて、龍卷を現出することあり。



第五十八圖  
雲の種類を示す。



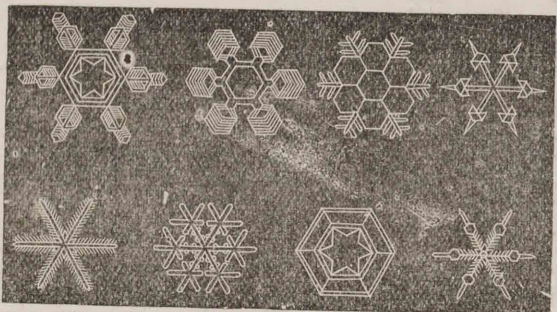
(一) 卷雲 織緯状、又は、羽毛状を呈し、非常に高き所に浮遊し、概ね、天氣のかはらんとする前に現はる。  
 (二) 積雲 夏の日に多く現はる、濃密なる雲にして、其の底は、殆んど水平なれども、頂は累々たる球状の峯をなせり。  
 (三) 層雲 地面に近く、水平層をなして、  
 舞<sup>カタヒ</sup>ける雲にして、天氣清朗なる日の朝夕に多く現はる。



(四) 亂雲 濃密なる不定形の

第五十八圖  
雪の結晶(六  
方晶系)の一  
例。

桑園又は茶園に及ぼす霜害は、實に恐るべきものあり。



黒雲にして、多くは雨雪を催す。

二、露及び霜 露は風静なる晴夜に於いて、大氣中の水分が、放熱したる地物の表面に觸れ、凝縮して細球状となりたるものなり。又、其の水分の冷却甚しければ、氷結して霜となり、往々植物に大害を及ぼすことあり。

霜害を防がんには、成るべく熱の放散を妨げ、氣温の低下を防ぐこと必要なり。その方法には、  
 覆蓋法(包被法を含む)、燻烟法、灌水法等あり。

三、雨・雪・霰及び雪 氣中の水分冷縮すれば、雨となり、また氷點以下に達すれば、雪となる。雪の多少融解して、雨交

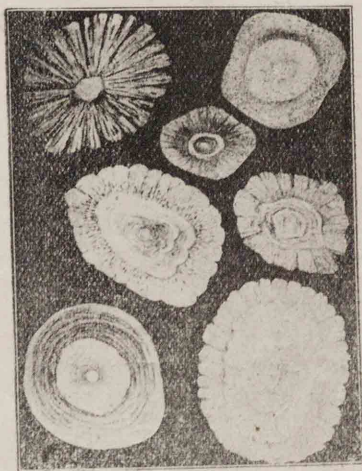


第五十九圖  
雹の断面圖

圖は明治四十一年六月八日午後東京に降りたるもの、實物二分の一大の寫眞にして中には徑三寸五分重さ五十一匁に達せしものあり。

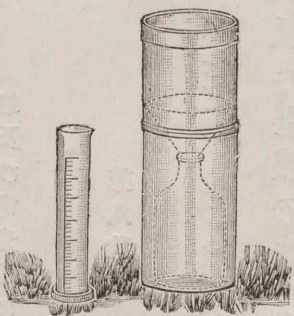
ひょう

りとなりて降るものを霰と云ふ。又、空中の水分が急激に氷結して、白色不透明なる球状の小塊となりて、降るものを霰と稱す。又、其の形頗る大きく、核心をなせる氷片の周圍に、比較的透明の層と、不透明の層との、交層を有する氷塊の降り來ることあり、之を雹と云ふ。雹は、多くは夏季の雷雨に伴ひ、往々農作物に害をなすことあり。



四、雨量の分布 一年間の雨・雪・霰・雹等の總量を雨量計にて量り、これを其の地の雨量(降水)と稱す。その多少は、大に水陸の配置、地形、海流、風向等によりて左右せらる。(雨量分布圖參照)

第六十圖  
雨量計の圖



水陸の地形 陸地は海面よりも雨量多し。山脈の風を受くる部分は、之に反する部分よりも多し。

海流 暖流の洗へる沿岸は、寒流の沿岸よりも多し。

五、日本の雨量 我國は四面環海、加ふるに黒潮の暖流は、沿岸を流れ、年々旋風の襲來あり。且、夏冬は多濕の季節風に浴するを以て、その雨量に富めること、蓋し温帶中有數の地なりとす。

六、日本の雨季 には、花に風情を添ふる春雨あり。初夏に鬱陶しき梅雨あり。盛夏には殷々たる雷鳴と共に驟雨夕立しばしば涼味を齎す。秋に入りては暴風に伴ふ豪雨の襲來あり。冬の初に至るものは時雨にして後れて見はるゝは、裏日本の積雪なり。

第四節 大氣中の現象

一、碧空 空氣はもと無色透明の物なれども、仰ぎて天空を望めば碧



大氣中の細塵とは水粒・塵埃・微菌等を云ふ。

色を見る。これ蓋し日光中の青色光線が、氣中の微細なる塵埃の爲に、反射せらるゝに由るものにして、雨後碧色のいよ／＼鮮なるは、細塵のいよ／＼微細なるに由る。

二薄明薄暮及び朝燒夕燒 日出又は日没の前後に當りて、太陽の光線の通過すべき氣層は、頗る厚きが故に、其の光線は、空氣及び氣中の細塵に觸れて、廻折轉向せられ、爲に薄明薄暮及び朝燒夕燒を生ず。たゞ朝燒夕燒は薄明薄暮に比して、其の度特に著しきのみ。

三日月の暈 暈(光輪、俗にかさ)は、太陽又は月の光線が、卷雲(前節を参照)を通過する際に、或は屈折せられ、或は反射せられて生ずるものなり。虹及び電光等に就ては理科を参照すべし。

### 第八章 天氣及び氣候

一、天氣 とは、或一定の場所に就て、或一定の時刻における氣界全體の狀況を云ふ。天氣は氣溫・氣壓・風力・風向・濕度・

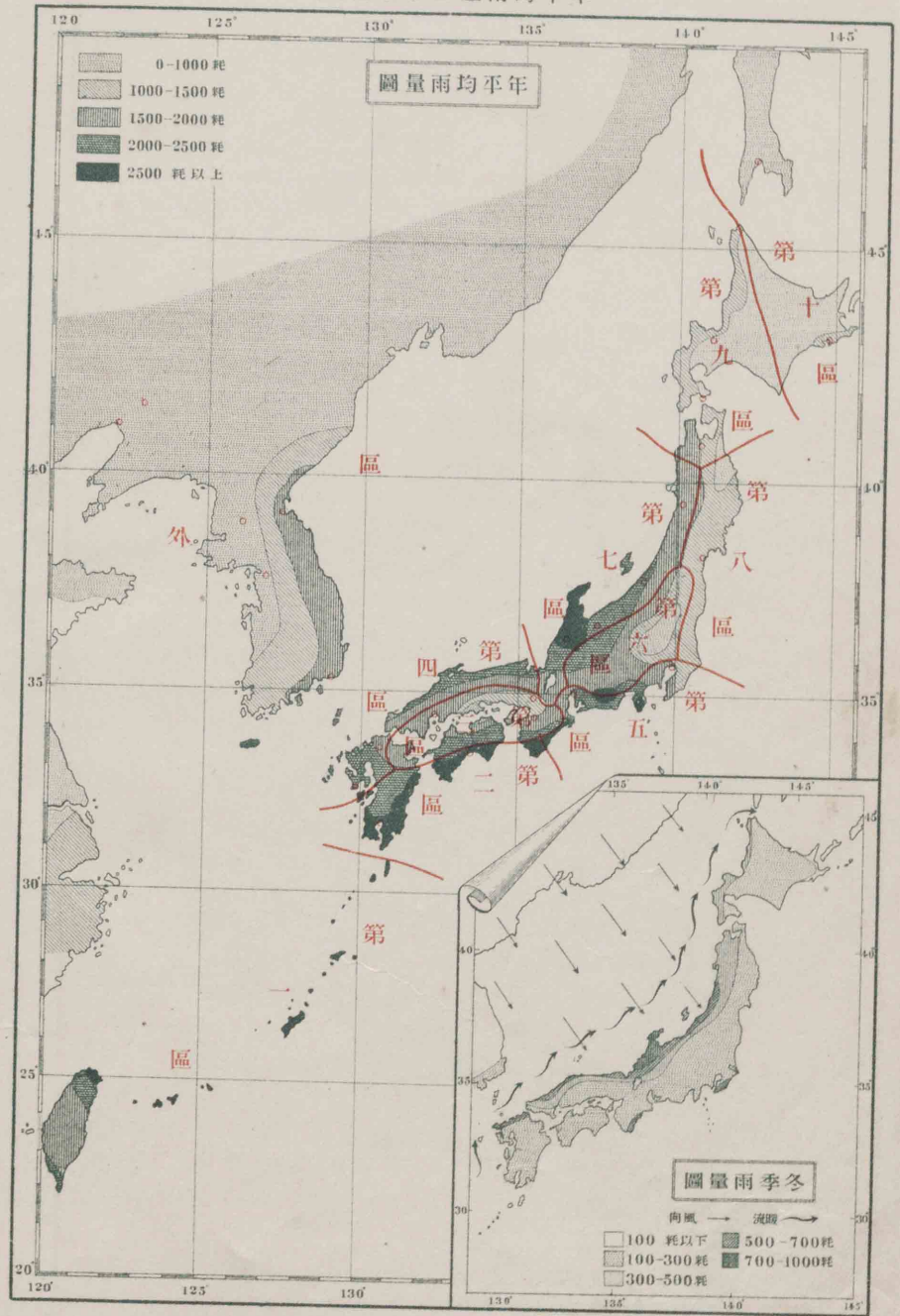
世界分氣雨量圖



世界分氣雨量圖



日本氣象區劃並雨量分布圖  
 年平均雨量及冬季雨量

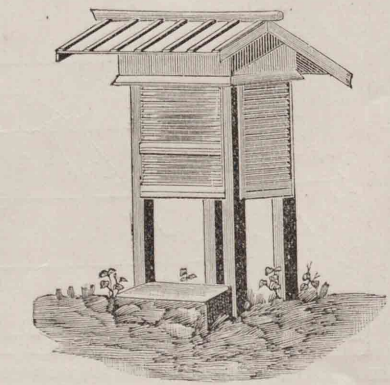


測候所にては、  
 概ね午前午後共  
 毎二時六時十時  
 に観測を行ふ。

第六十三圖  
 百葉箱

内部には寒暖  
 計温度計等を  
 装置せり。

天氣と氣候との  
 別如何。



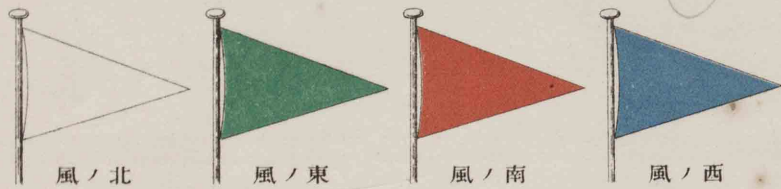
雲・霧・雨・雪・雷・電等によりて變化するものなり。故に、天氣を知らんと欲せば、是等の要素に就きて観測せざるべからず。現今我國にては、一百有餘の測候所に於て、之を観測し、中央氣象臺にては、その報告に基づき天氣圖を製し、天氣の變化を攻究して、日々の天氣を豫報しつつあり。又颶風の虞ある地方へは直ちに警報を發す。

二、氣候 長年月間に於ける天氣の平均を、その地の氣候といふ。氣候は、緯度及び土地の高低、水陸の配置、海流等によりて異なり。

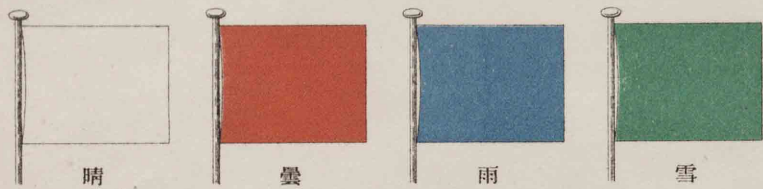
一般に、熱帶地方の氣候は、常に高温にして四季の別なく、



地方天気豫報信標



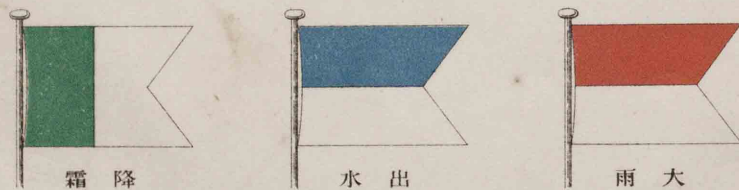
風ノ北 風ノ東 風ノ南 風ノ西



晴 曇 雨 雪

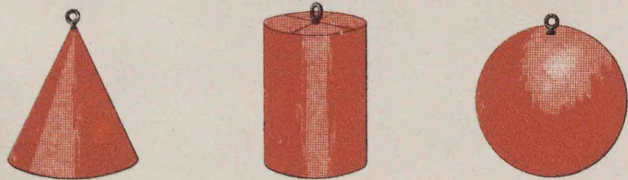


ル昇度温 ル降度温



霜降 水出 雨大

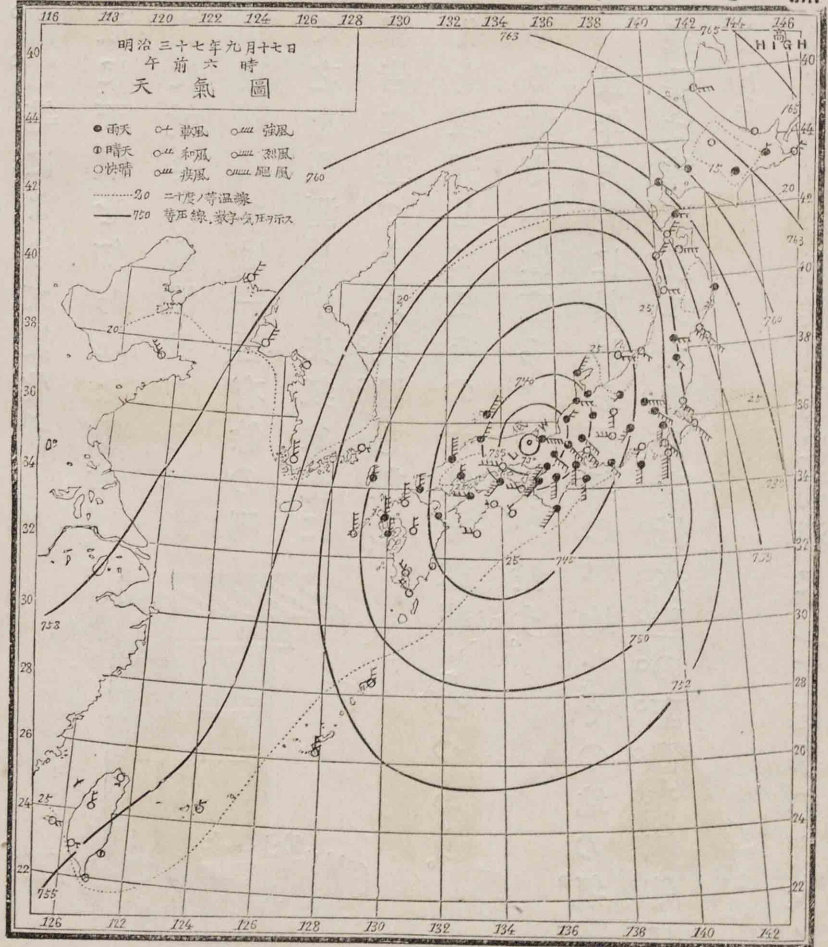
地方風暴警報信標



リア廣ノ雨風暴 シベルカ強雨風 シベルカ強風

第六十四圖  
天氣圖

僅に乾濕の二季あるのみ。温帯地方に至れば、四季の別既に明なり。寒帯地方は、年中寒冷にして、空気が頗る乾





四季	月	北半球	南半球
	三	春	秋
	四	夏	冬
	五	秋	春
	六	冬	夏
	七	春	秋
	八	夏	冬
	九	秋	春
	一〇	冬	夏
	一一	春	秋
	一二	夏	冬

第六十六圖  
高山植物の數  
例を示す。

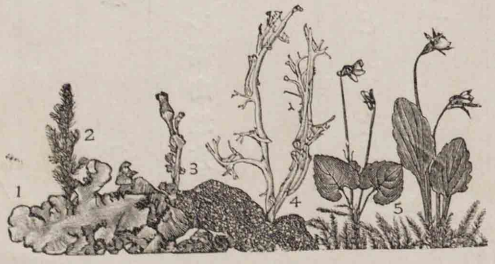
1. カブトゴケ
  2. マンネンゴケ
  3. ハナゴケ
  4. シミヅゴケ
  5. ヤマスミレ
- (實物の二分一)

燥せり。

又、大洋中の島嶼にては氣候の變化少く、所謂海<sup>○</sup>洋<sup>○</sup>性<sup>○</sup>氣<sup>○</sup>候<sup>○</sup>を呈し、大陸の内部に入れば、寒暑の差烈しくして、所謂大<sup>○</sup>陸<sup>○</sup>性<sup>○</sup>氣<sup>○</sup>候<sup>○</sup>となる。

第九章 地勢・氣候・生物相互の關係

一、地勢・氣候と生物 生物は、(一)自己の力、若くは、(二)他の物の力に依りて、次第に各地に移住傳播し、其の地の氣候及び地形、地質等の如何によりて、更に幾多の變遷、淘汰を経て、各、其の適する所に繁殖し、以て今日の分布状態を見るに至りしもの





なり。尚、左に地勢・氣候・生物相互の關係を知るに足るべき略表を示すべし。

地勢・氣候・生物相互の關係を知るべき略表

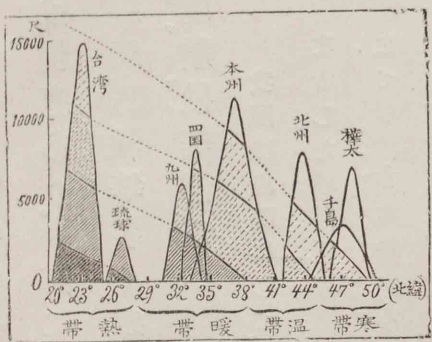
地勢	氣候		
	熱帶	溫帶	寒帶
平地及び低山地方	氣候多濕にして暑き甚しく植物は其の形態概ね大きく、色澤美麗且多漿質にして盛に繁茂せり。動物には象、獅子、孔雀、駝鳥、巨蛇等多し。	熱帶の中山地方に似たり。	熱帶の高山地方に似たり。
中山地方	氣候溫暖にして、一般に形態の大なる生物に乏しく、色澤等あまり著しからず。	熱帶の高山地方に似たり。	殆んど生物を見るを得ず。
高山地方	氣候寒く、生物の形態概ね小にして其の種類も亦甚だ少し。	生物の種類極めて少く、形態亦甚だ矮小なり。	全く生物なし。

熱帶地方における高山の頂上と、沿岸平地との生物の差如何。又右兩地の氣候の差如何。

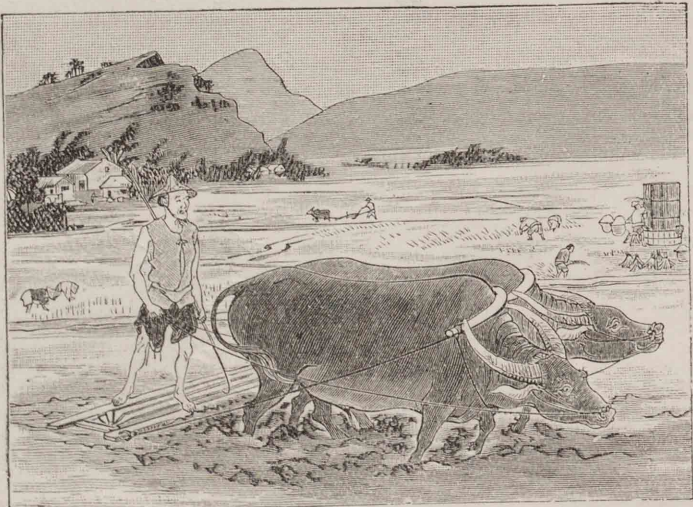
我國は地域狹長にして地勢・氣候頗る多様なるが爲め(一)植物は其の種類の変化に富めり。

第六十七圖 臺灣にて水牛を役せる圖

第六十八圖 日本の植物帯及び氣候帶説明圖



三 本邦の生物 我國は、地域狹長にして、地勢・氣候頗る多様なるが爲め、(一)植物は、其の種類の変化に富めり。故に、一度南方暖地より、北方寒地に至る間を過ぐる時は、熱帯種より寒帯種に至る、種々の植物を見るを得べし。



(二)動物も亦、南より北に至るに従ひて異なり。たとへば、南方の陸



第六十九圖  
鰻蛄獸の圖

上にては、水牛・猿等多く、北方なる樺太には馴鹿あり。海には暖流の洗ふ所に、鰻蛄・鯛・烏賊等多く、寒流の來る所に鮭・鱒・鰻蛄等群るが如きこれなり。

我國は島國にして、古來他の地方との交通不便なりしたため、動物植物共に特異の發達をなし、植物にては、檜・高野・榎・姫小松・カツラ等特有のものあり。又公孫樹・櫻・樟・杉・椎・赤松・黒松・楓等特によく生育し、動物にては、サンショウ魚・鮎・鰻蛄獸・獵虎等他地方に少きものもよく繁殖せり。



## 第二編 人文地理

### 第一章 自然と人類との關係

#### 第一節 地形と人文

一、山と人文 山は、其の成因の如何を問はず、概ね、(一)交通を妨げ、(二)人文の發達に障害を與へ、人文進歩の境界線をなし、(三)行政上の自然の境界となること多し。飛驒山脈を挾める松本地方と、高

第七十圖  
地形と行政區劃との關係を示す圖

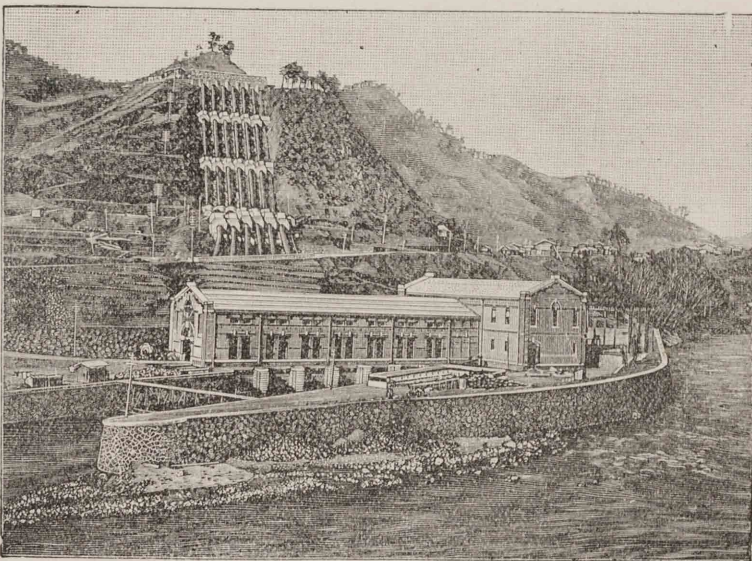


をなし、(三)行政上の自然の境界となること多し。飛驒山脈を挾める松本地方と、高



第七十一圖  
桂川水力電気  
發電所の景。

富士登山者の數  
は近年次第に増  
加し、毎夏約五  
萬人に達すとい  
ふ。



山地方との風俗言語等の著  
しく相異なるが如きは、實  
によき例とすべし。(四)山岳  
は有用なる礦物を包藏し、  
(五)草木を繁茂せしめ、(六)水  
源を涵養し、(七)其の地方の  
生業に影響を及ぼす等、物質  
上に資する所多し。又、(八)  
精神上にも種々の影響を及  
ぼすこと少からず。富士山  
の日本人に及ぼせる感化の  
如きは、實に偉大なるものあ

各國耕地の大半  
と、人口の大多  
數と、多くの都  
會とは、共に河  
流の作れる平原  
の上にあり。

りと云ふべし。

三、河と人文 河は、概ね、(一)肥沃なる平原を作りて人類  
の生業に資し、(二)或は灌漑に便し、又、(三)交通路となりて、  
人生に裨益す。利根川、淀川、信濃川、揚子江、ガンガ河、ライン  
河、ミシシッピ河等、概ね、然らざるは無し。(四)近時文明の  
諸國にては、盛に水力を利用して動力となし、各種の工業を  
營み、人事上に裨益する所少からず。

然れども、時として洪水を起し、交通を妨げ、従つて山岳と  
共に人文上の境界線となることあり。

三、海岸と人文 海岸には、直線式なるもの、(第七十二圖)、樹  
枝状をなせるもの、(第七十三圖)、鋸齒式なるもの、(第七十四圖)、  
急傾斜をなせるもの、緩傾斜をなせるもの等、種々あり。而

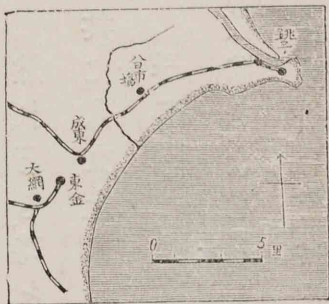


第七十二圖(右上) 直線状海岸を示す。

第七十三圖(右下) 樹枝状海岸を示す。

第七十四圖(左上) 鋸齒状海岸を示す。

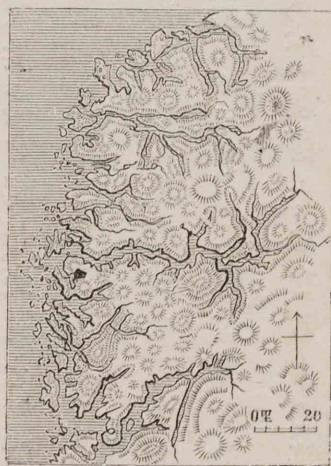
海岸及び島嶼には、概して水産業・航海業・製鹽業等盛んなり。



(濱里九十九縣葉千)



(岸海の縣手岩)



(灣峽の1エウルク)

して其の海岸の狀況が大に其の地方の文化に關係あるこ

とは、歐羅巴洲の西部及び南部に開明國多く、阿弗利加洲に未開の國多きを見ても知らる。

又、港灣に富める地方よりは、多く船乗業者を出すことは、ノルウェー等に見る所の如し。

然れども、新潟縣・秋田縣等の沿岸の如く、至る所、砂丘の連れる場合の如きは、少からざる害をなすことあり。

罪人の流刑地となりし島を知らるか。

四、島と人文 海洋中の島嶼は、恰も、沙漠中のオアシスの如きものにして、往々、(一)貿易上、(二)交通上、(三)軍事上の要地となりて、人文上に重要な關係を有せり。太平洋中の小笠原島・グアム島・地中海のマルタ島の如きは、其の著例なり。(四)島は、古は山間と等しく、交通不便なりしを以て、時として罪人の流刑地となりし事あるは、史上に見ゆる所の如し。(五)一般に地形狭小なるを以て、其の住民は、所謂島國的根性となり、偏狹に陥り易き弊あるが如しと雖も、而も獨立自負の氣風には富めるものゝ如し。

第二節 氣候と人文

一、氣候と文化 試に世界地圖を披きて、氣候帶と人文と

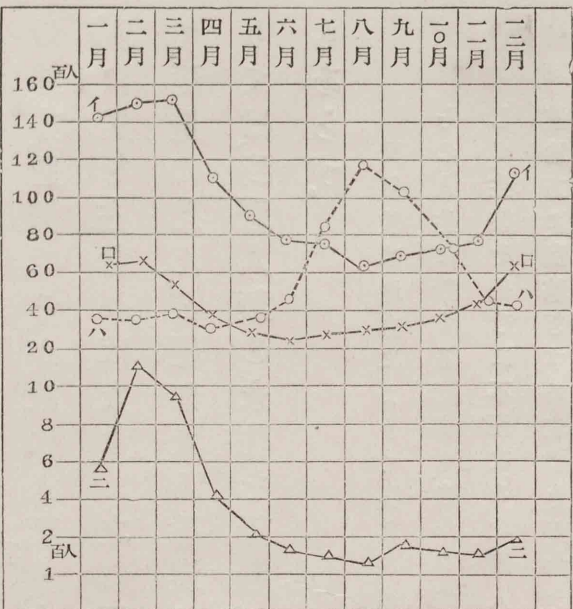


氣候帶と生業との關係如何。

の關係を觀るに、(一)開明國は、概ね溫帶地方にありて、熱帶寒帶には、未開の國多く、亞熱帶の地方には、半開の國多きを知る可し。(二)熱帶地方にありては、植物の發育盛にして、特に食用植物に富み、棉・米・珈琲・甘蔗・烟草等の栽培行はれ、溫帶に至れば、麥・麻・野菜・葡萄・林檎等の栽培行はれ、牛・馬・羊・豚の飼養盛にして、寒帶に至れば、以上の如き生業に乏しく、僅に海豹・臘納獸・熊及び諸種の毛皮獸等の漁獵行はる。(三)此の如く、氣候が、其の地方住民の生業及び文化に影響する事甚しきは、蓋し、熱帶・寒帶の地方は、其の氣候あまりに激烈にして、勤勉力行に適せず、且、住民の性質も自から無氣力となり、溫帶地方にては、寒暑中を得、最も人の作業に適し、住民の氣風も、亦活潑なるに由るべし。

第七十五圖 氣候と健康との關係を示す圖

イ呼吸器病患者死亡數  
 ロ先天性弱質者死亡數  
 ハ下痢患者死亡數  
 ニ感冒患者死亡數



二 氣候と健康

も、亦著しき關係を有するものにて、(一)

我國にて、腸チブス・赤痢・脚氣等の患者は、年々夏秋の候に激増し、之を冬春の患者數に比すれば、實に數倍乃至數十倍の多きに達せり。(二)呼吸器病患者の如きは、之に反して、冬季に於いて著しく増加し、夏季にものは、甚しく減少するを常とす。(三)生來弱質若くは老衰せるもの死亡數は、冬季は、夏季に比して著しく多數なり。又、人類の分布と氣候との間にも、密接なる關係あり。特

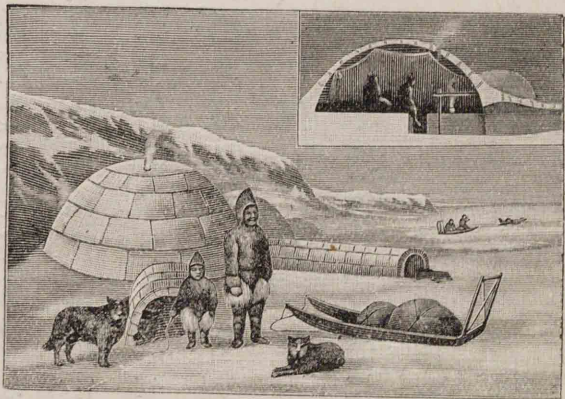


人類の分布には、自然的分布の外、近來、人為的分布盛んに行はる。

第七十六圖

氣候と生活狀態との關係を知るべき圖  
エスキモー土人と其の住居。

に、雨量の分布と人類の分布とは、畧一致するものの如し。蓋し、雨量多き地方は、概して、生物の繁殖に適し、地味亦、肥沃なるが故に、人類も、亦、此所に居を占むればなり。之に反して、雨量の殆んど絶無なる砂漠にありては、到底人類の永住を望むべくもあらず。



又氣候は地方によりて異なるがため、その人生に對する影響も、自から地方によりて差あり。冬季降雪多くして、生業を營むに不便なる北國人が、此の期を利用して、晴天多き東海道地方に、出稼ぎする者多きが如き之れなり。

此の他各地の氣候に應じて、衣食住、其の他の器具に至るまで、少から

ざる變化あるは、吾等の往々見聞する所にして、藁靴、橇等の雪國にのみ行はるゝが如き是なり。

第二章 住民及び其の狀態

第一節 世界の人類

一、人口 世界の人口は、大約十六億にして、他の生物に比し、最も廣く分布せり。これ人類は、萬物の靈長にして、よく諸種の障害に打勝つを得るがためなり。而して、其の増加も、亦、頗る盛んにして、日・英・米・獨・露等にありては、約七八十年毎に、人口倍加すべき有様なるを以て、限りある地上に、殆んど限りなき人口を、收容せざるべからざる勢なるがため、優勝劣敗の活劇は、至る所に演出せられ、生存上の競争は、目を追うて烈しからんとす。今、世界人口の各大洲に分布せる



狀況を示せば左表の如し。

各大陸の人口比較		大洲	總數	百分比	一方里人口
亞細亞洲	約八億五千萬	亞細亞洲	約八億五千萬	五五、〇	二八〇人
歐羅巴洲	約四億五千萬	歐羅巴洲	約四億五千萬	二五、〇	六二〇人
阿弗利加洲	約一億五千萬	阿弗利加洲	約一億五千萬	一二、〇	八〇人
北亞米利加洲	約一億萬	北亞米利加洲	約一億萬	五、〇	六〇人
南亞米利加洲	約五千萬	南亞米利加洲	約五千萬	二、五	三〇人
オセアニア洲	約七百萬	オセアニア洲	約七百萬	〇、五	一〇人
總計	十六億七百萬	總計	十六億七百萬	一〇〇、〇	平均約一七〇人

世界に於ける人口密度の最も大なる地方如何。

三人種 次に、世界住民の人種別を見るに、其の分類種々なれども、通例左の數種とす。

(一)蒙古人種(アジヤ系)は、主として亞細亞洲に住し、皮膚は

第六十四圖 亞米利加土人の肖像を示す。



黄色にし、毛は直毛、鼻は中鼻なるを特徴とす。

(二)ユーロカシア人種(歐羅巴系)は、白色の皮膚と、波状毛と、狭鼻とを有するを通性とす。

(三)アフリカ人種(南方アフリカ系)は、黒色の皮膚と、廣鼻とを有するを特徴とす。

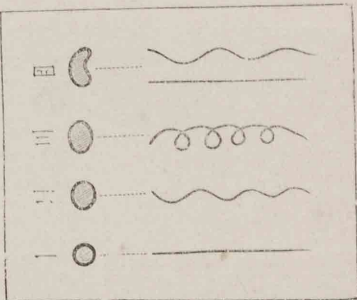
(四)亞米利加人種(亞米利加系)は、其の皮膚

第六十六圖 ニュージーランド等に住するマオリ人の海岸の島嶼住民の一例。顔面縦横に皺をなし、其の家にも奇なる彫刻を施せり。





第六十七圖  
各人種毛髮の  
形状、及び其  
の断面を示す  
圖。



人アジア(一) 人土カリフア(三)  
人パツロヨ(二) 人土カリメア(四)

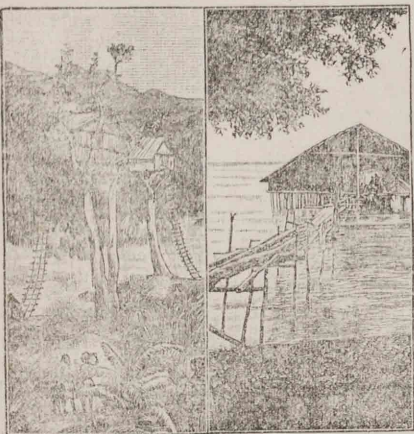
膚銅色にして、毛は直毛、或は波状毛にして、鼻は中鼻なり。(五)海岸島嶼住民は、前四者以外の人種にして、主としてオセアニア洲に住せる人民を一括せるもの、人種として一定の性質を有せざるものなり。

三、文野 世界人種の文化の階級を見れば、(一)専ら自然物に依頼して、勤勞思索を費さざる原始状態の者あり。之を野蠻人とす。(二)主として遊牧を業とし、傍ら耕作を営む漂泊時代の者あり。之を未開人とす。(三)一定地に永住して、農耕及び商工業を勤め、機械を利用し、文化の程度頗る高きものあり。之を別つて、其の文化の程度の稍低きものを

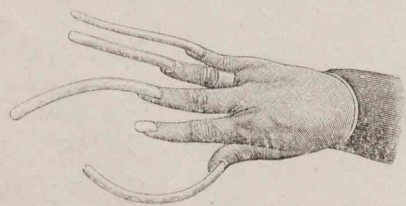
半開人とし、最も高きものを文明人とす。今日の強國は概ね皆文明の域に達せり。

四、土俗 世界諸人種の風俗習慣を總括して土俗と稱す。土俗には、(一)衣食住・祝祭・吊問等に關する有形の事柄と、(二)信仰・迷信等に關する無形の事柄との二大別あり。

有形上の土俗には、身體の諸部分に關するものと、身體以外の物に關するものとあり。結髪及び文身の多様なること、鼻・耳・齒・皮膚等に種々の裝飾



第六十八圖  
水上及び樹上  
の家。  
マライ諸島及び  
南洋諸島に多  
し。



第六十九圖  
安南上流人士  
の手爪。



等を施すが如きは、皆身體に關する土俗の例なり。  
 衣服の製法及び、著用法の種々なること、家に土中の家、地上の家、水上の家、樹上の家等ありて一様ならざること、發火法・飲食物・料理法等に種々なる風習あること等は、即ち、身體以外の物に關する土俗の例なり。

尙、成人認定法・男女選擇法・弓箭放射法等につき、諸人種間に様々の風習あり。是等各種の土俗を比較攻究すれば、自から諸風俗の變遷發達せし經路をも知るを得べし。

五、言語・宗教 (一)言語の中、最も多數の人に用ゐられ、且、方言多きは支那語なり。又、世界の商業語は、英語及びイスパニア語にして、外交及び交際語としては、佛語最も廣く行はる。  
 (二)主なる宗教の現況は左表の如し。

國語の統一は、其の國の統治上大切なることなり。

百分比の計の一〇〇、六となるは、四捨五入の爲めなり。

多神教				一神教			宗教別	
其他	印度教	佛教	儒教	神道	猶太教	回教	耶蘇教	
各種の偶像崇拜及び迷信等	波羅門を崇拜す	釋迦の教旨	孔子の教旨	神道	モーゼスの教旨	ムハメットの教旨	耶蘇基督の教旨	
阿弗利加内地・オセアニアの各地及び南北アメリカの所々	印度	亞細亞洲の東部及び南部	支那・日本	日本	歐米各地に散在するユダヤ人	亞細亞洲の中部及び西南部 阿弗利加の北部及び東部	東派—露西亞・バルカン半島 西派—歐洲北部・合衆國以北 新教—歐洲南部・メキシコ以南 舊教—歐洲南部・メキシコ以南	
八千萬	二億	四億五千萬			一千萬	二億	二億 三億	
五	一三	二八			〇、六	一三	九 一三 一九	
							信徒概數	百分比
							同上	上



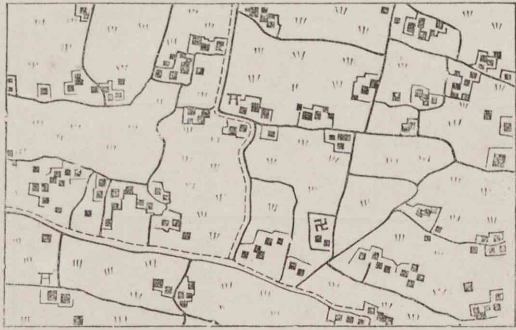
第二節 人類の聚落

一、村落 世界の人類は、互に關係を有して、共同生活を營み、小にしては、村落・都市を作り、大にしては、國家・社會をなし、

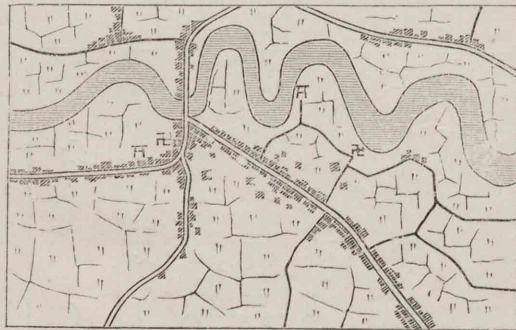
第七十圖 散村の形式を示す。

第七十一圖 街村の形式を示す。

(近附町須加縣玉埼) 例一の村散



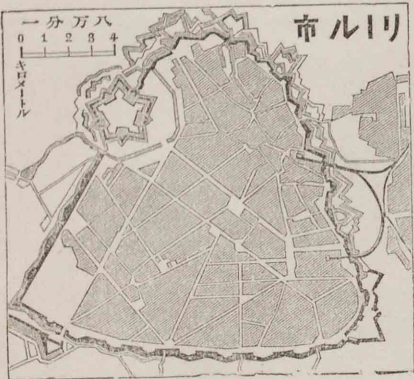
(近附村上吹道山中) 例一の村街



治者あり被治者ありて、各、其の團體の福利を増進せんことを計りつゝあり。而して、村落は、人類聚落の初步にして、人類の住

める所には、至る所に之を見る。其の形式には、(一)散村あり、(二)集村あり、(三)鏈村あり、(四)街村あり。散村・集村は、最も多くして、農業地方に發達し、鏈村・街村は、半農・半商の地方に多し。

第七十二圖 城壁もて圍みたる都會。フランス國リール市。都市發達の原因如何。及び其の實例如何。

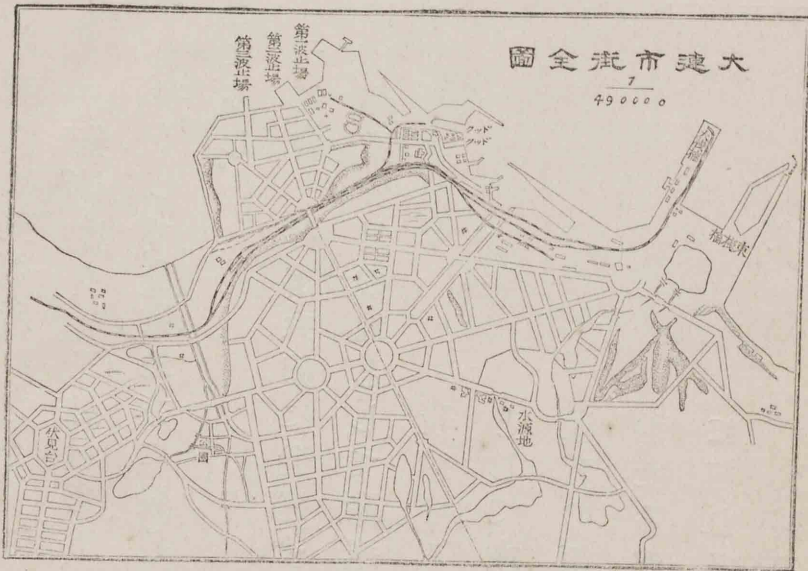


二、都會 村落次第に發達すれば、遂に都會となる。都會には、商業貿易の地として發達せるものあり、工業地として發達せるものあり、或は政治の中心地として、或は、交通の結節點として、或は教育の源泉地として、或は宗教上の靈地たるがため、或は遊覽地たるがために起れるものあり。又、其の構造には、支那・朝鮮・佛蘭西の



都市の構造如何。

第七十三圖  
一定の計劃の上  
に築かれたる都會の形式を示す。  
關東州大連市



一部等の都市に多く見るが如く、城壁を以て圍繞せるものと、然らざるものとあり。又、新に經營せられたる都會の如く、街衢整然として區劃せられたるものと、古來自然に膨張して、不規則なる發達をなせしものとあり。

現時各國の人民は、其の商工業及び交通の發達に伴ひ、都會生活をなすもの年を逐うて増加し、英國の如きは、田園生活をなすものは、僅に二十

山

三、に過ぎずといふ。我國にては猶八十五%の村落生活をなすものあり。(附録(一)参照)

三、國家 村落及び都會等相集まり、一層大なる團體となりて、一定の土地及び人民を有し、之を統治する主權者あるに至る時は、之を名づけて國家(又は)と稱す。現時、世界の獨立國は、其の數四十餘ありて、中に強國と稱せらるるもの八ヶ國(日本・英吉利・佛蘭西・獨逸・露西亞・奧國・意大利・洪牙利・伊太利・北米合衆國)あり。

國と國との境界線は、概ね、山脈・河湖・海灣・經緯度等によりて定めらる。

四、政治 世界諸國の政治には、立憲君主政治・專制君主政治及び共和政治の三種あり。立憲君主政治とは、國家の主權は君主に歸し、國民も亦參政權を有するものを云ひ、專制



各種政治の實例如何。

君主政治とは、獨り君主のみ政權を握り、國民は全く參政權を有せざるものを云ふ。共和政治とは、國家の統治權の、全國民の間にあるものを云ふ。是等諸政治の中、最も進歩せるものを立憲政治とす。されば、世界諸國民は、争うて憲政に浴せんことを望み、露國・土國の如きも、最近に至つて立憲政治を行ふこととなり、清國も亦將に之を實施せんとす。

第三章 生業及び重要産物の分布

生業の種類如何。

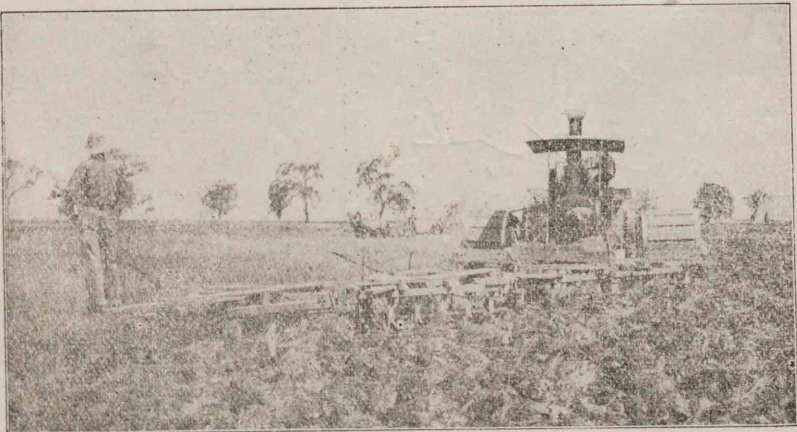
一、生業 人類の生活上の要求を満たさんがために、營む仕事を生業と稱す。生業の種類には、(一)主として原料の培養採收等をなす農業・林業・牧畜業・鑛業・水産業の如きものあり。(二)其の原料に工作を加へ、改造精鍊して、他の需要を

第七十四圖

大農法耕作の景を示す。北米加奈太の農業。

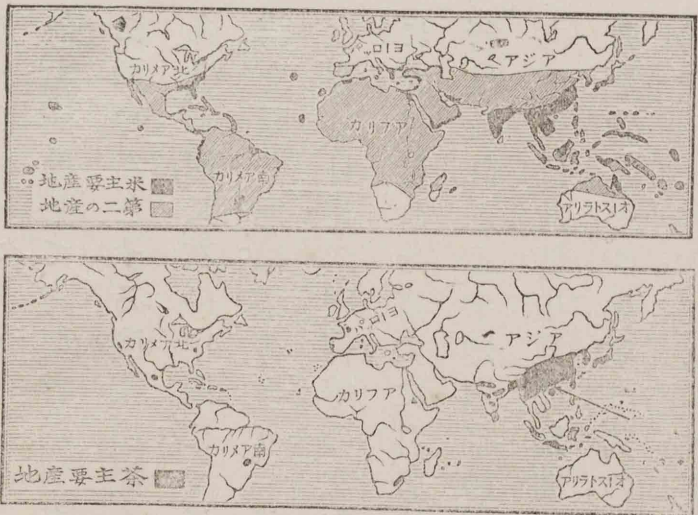
生業と地勢との關係如何。

待つ工業の如きものあり。(三)有無を交易して、需要者供給者の間に利せんとする商業の如きものあり。(四)又、其の中間にて、通運・航海を營む運輸業等あり。是等の生業は、日・英・米・獨・佛等の文明社會にては、何れも盛大に、且、分業的に行はるれども、半開以下の國民にありては、此等生業の別、明ならざるを常とす。生業は、其の地の地勢・風土の如何によりて、差あるのみならず、(第二篇第一、二節参照)又、同一の生





第七十五圖  
米・茶産地分布圖。

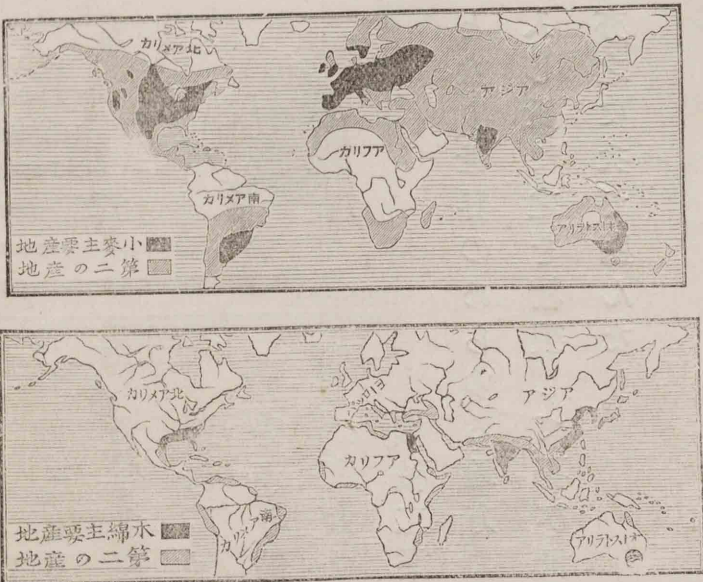


業にても、人民の文野及び土地の状況等によりて、其の方法を異にすることあり。例へば農業にも大農法と小農法とあり、工業にも手工業と機械工業とあり、商業取引にも、物々交換・貨幣交換・信用取引等の別あるが如きこれなり。

二、重要産物の分布 (一)世界の生産物中、最も重要なるものは、穀類(特に麥類及び米類)にして、露西亞・北米合衆國・南米大陸の各大平野は、世界穀産の三大寶庫と稱

第七十六圖  
小麥・綿産地分布圖。

重要産物の分布につきては、尙、附録(二)及び(三)を参照すべし。



せられ、盛んに他の地方に向つて輸出せり。之に次げる穀類産地は、北部阿弗利加・英領印度・佛領印度・亞細亞諸島及び濠洲等とす。

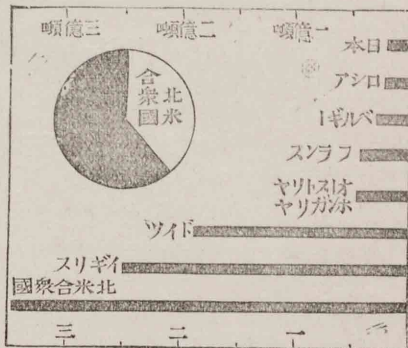
(二)衣服の料に供せらるべき、棉類及び羊毛の産出地は、棉類にては、北米合衆國・印度・埃及・清國等にして、羊毛にては、濠洲・アルヘンチナ・南アフリカ等とす。

又、生絲は日本・支那・伊太利・土耳其・佛蘭西・波斯等よ



第七十七圖 世界石炭産出比較圖。

圖中の圓形の部分は、全世界と北米合衆國との石炭産額の比較を示す。



となり、世界のあらゆる地方より、各種の原料品・粗製品を輸入し、更に之を精製して、再び世界各地に供給す。米・獨佛等亦之に次で盛んなり。

り供給せらる。

(三)工業に大關係を有する石炭は、北米合衆國・英・獨・佛・白等の諸國より盛んに産出し、鐵は、北米合衆國・獨・英・露・佛等より供給せらる。特に英國の如きは、廣大なる炭田と鐵坑とを有し、爲に機械工業發達して、世界第一の工業國

#### 第四章 交通

##### 一、交通機關の種類

人類の活動に、至大の影響を及ぼすものを交通機關とす。而して、其の最も重要なものを、鐵道・船舶・郵便・電信及び電話とす。

二、交通機關の發達 近來、交通機關の設備改良は、日に月に完全の域に進み、其の發達進歩は、次第に地球を時間的に縮小せしめつゝあり。

而して、各種交通機關の内、(一)鐵道は、最も有力なるものにして、如何なる僻地と雖も、一條の鐵路の敷設せらるるに至れば、忽にして、其の地方の面目を一新す。されば、各國競りてこれが改良及び延長を企て、ベルギーの如きは、實に世界第一の發達をなせり。

現今、世界の鐵道の總延長は、實に五十六萬餘哩に達し、地

ベルギーは、面積百方哩につき、約三千七百五十哩の鐵道を有せり。



球周囲の約二十倍に至らんとす。今、之を八大強國につき  
て見るに、其の形勢左表の如し。

各國鐵道創設  
の年

英 一八二五  
米 一八二七  
佛 全 二八  
獨 全 三五  
露 全 三七  
伊 全 三八  
日 全 七二

主 要 諸 國 鐵 道 概 況							國 名	最急行列車速度 (時間)	人口一萬に對する 既設鐵道の長さ (概數)	面積百方哩につき 既設鐵道の長さ (概數)	最近五ヶ年間の延 長の割合(百分比)
伊	國	三	一	九	三	三	日本	二八哩	一哩	三哩	二〇
英	國	五〇	六	一九	三	三	英國	五〇	六	一九	三
米	國	五九	三九	一	一三	三	米國	五九	三九	一	一三
獨	國	五二	六	一七	七	七	獨逸	五二	六	一七	七
佛	國	四七	七	一四	六	六	佛國	四七	七	一四	六
露	國	四七	三	一	七	七	露國	四七	三	一	七
埃	國	三七	五	一〇	七	七	埃國	三七	五	一〇	七
伊	國	三一	三	九	三	三	伊國	三一	三	九	三

歐米の鐵道は、概ね廣軌なれども我國のは從來狹軌なり。

各國船舶の噸  
數(概數)

英 一七五〇萬噸  
米 六五〇萬噸  
獨 三八〇萬噸  
那 一九〇萬噸  
佛 一八〇萬噸  
伊 一二〇萬噸  
日 一一五萬噸

(二)次に、船舶につきて之を觀るに、近時次第に快速力の大  
汽船を造り、競うて、航走するに至れり。其の結果、一萬噸以  
上の汽船は、近年に至りて始めて現はれたるものなるにも  
拘はらず、今や進んで、五萬噸に達する大汽船の出づるあり。  
其の速度の如きも、亦二十節ノットを越ゆるもの續出せんとし、  
海上も亦陸上と異なるなからんとす。而して、世界の船舶  
は、凡、三千七百萬噸に達し、英國殆んどその半を占め、北米合  
衆國、獨逸、那威、佛蘭西、伊太利、日本等相次げり。  
現今、海上交通の最も頻繁なるは、文化の程度高く、商工業  
の發達著るしき西歐羅巴と、北米東岸との間にありて、十數  
條の海底電線と、兩岸の鐵道網と相俟ちて、世界交通の巷た  
り。而して太平洋も亦將に此の如くならんとす。



最近に至りて、空中飛行機も實用に供せられんとす。

(三)以上の外、郵便制度も月と共に發達し、加ふるに、電信電話、電車、無線電信等の利用益、盛んに爲に世界は、著しく縮小せられ、坐して歐米の人と語るを得べく、月餘にして世界を一週するを得るに至れり。(附録(四)参照)而も、近き將來に於いては、尙之をも緩漫なりとして、笑ふ日あるべきを想へば、何ぞ悠々たるを得んや。

第五章 世界主要諸國の國力比較

一、國力の要素 凡そ國力の大小強弱は、(一)其の國の位置、地勢、廣狹、地味の肥瘠、氣候の適否等、國土に關するものと、(二)其の國の人口の多少、國民の氣質、教化の程度、政治の良否、産業の盛衰、兵力及び富の程度等、人力に關するものとに

由りて別る。故に是等を國力の要素とす。

二、國力比較 今、左に世界の主なる國々につきて、其の國力の大勢を比較説明すべし。

(一)國土廣大にして人口多數なる國は、概して其の勢力強大なり。露西亞及び北米合衆國の如きこれなり。(圖參照(第七十八))  
(二)又、其の本國必ずしも大ならず、人民亦必ずしも多からずと雖も、國土の位置、地形、氣候等適良に、天產物豊に、國民の教育、生業、軍備、航運業等の最も進歩せる英吉利の如き國に

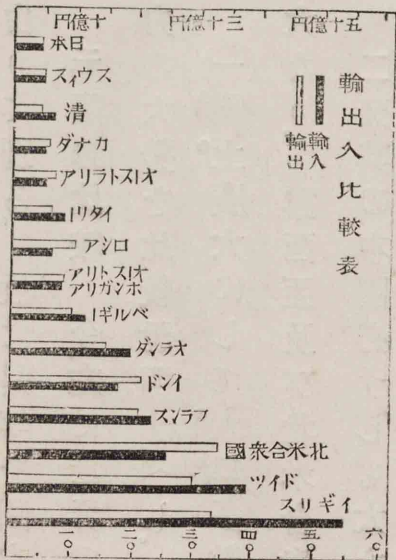
第七十八圖

主なる國の國土の大小を示す。我國より大なるもののみをあらわす。

本口	44
アフリカ	30
タラシ	135
ルガトル	146
イギリス	143
ツイド	204
コルト	340
640	國衆合米北
721	清
814	スラフ
1504	アシヤ
1868	スリギイ 里方千



第七十九圖 世界主要諸國の輸出入比較表。



ありては、本國の約百倍にも相當せる領土を有せり。之に反して、彼の清國の如きは、國土に關しては、頗る優良の地位にありと雖も、人民の愛國心、並びに智力及び政治等、未だ至らざる所あるが爲に、今、尙、列強と伍するを得ざるのみならず、時に或は、列強の輕侮を免れざるの憾あり。

(三)次に、列國の貿易狀況につきて觀るに、英吉利は、其の總額著しく他の諸國に勝りて、世界第一の巨額を示し、我國の如きは、和蘭・白耳義等の下にあり。

(四)次に、各國の歲入・歲出の額を比較すれば、其の總計に

第八十圖 列強海軍形勢一覽表。各國戰艦比較

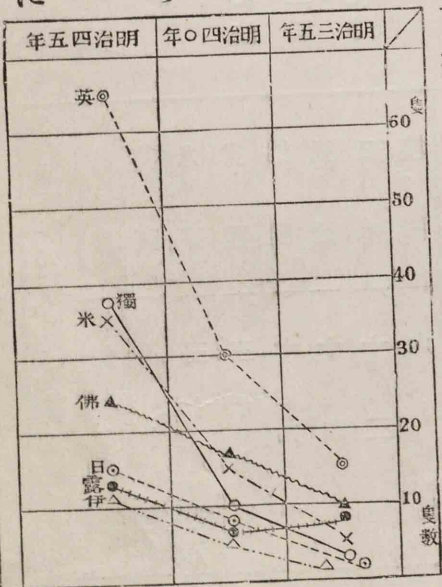
於いては、露西亞を第一とし、佛蘭西・英吉利・獨逸・北米合衆國・伊太利之に次ぎ、我國の十數億圓を以て、更に之に次ぎ、西班牙・白耳義・奧匈國等亦之に次げり。

近年、我國の歲入・歲出額頗る膨脹せるは、注意すべき現象なり。

(五)又、列國國債の狀況を觀れば、佛國の百二十億圓餘を第一とし、露西亞・英吉利・伊太利・西班牙・我國等之に次ぎ、北米合衆國・獨逸・奧匈國等は、我國の下にあり。

(六)次に、海軍力に關する列國最近の形勢は、下圖に示す所の如し。

之によれば、日本海々戰に





於て世界を駭かせし我海軍の前途も、數に於ては、決して晏如たるべからざるを知るべし。

圖中英獨米の進歩の著しきに注意すべし。特に獨逸が米佛二國凌駕するに至りしは目覺ましき現象と云ふ可し。(第八十圖)

伊國	九	十	隻
英國	八	十	隻
米國	三	十九	隻
露國	三	十七	隻
佛國	十	九	隻
獨國	十	四	隻
日本	十	三	隻
奧國	六		隻

(七)又、陸軍の兵數を比較すれば、左表に見るが如く、戰時總兵員の最も多數なるは、露西亞及び獨逸にして、我國の如きは、列強中實に第五位にありとす。

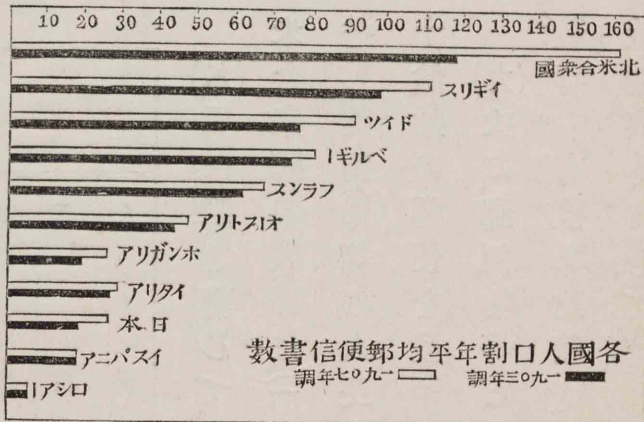
國列	平時兵員全數	戰時兵員全數
露國	一二〇、〇 <small>萬人</small>	四五〇、〇 <small>萬人</small>
獨國	六二、〇	四〇〇、〇

陸軍兵數概況	佛國	奧國	日本	伊國	西國	米國
兵數	五五、〇	四〇、五	二二、五	二四、〇	八、〇	一六、〇
戰時兵員全數	二一〇、〇	一八〇、〇	一五〇、〇	一〇五、〇	五〇、〇	三五、〇

(八)更に眼を轉じて、各國人口割郵便物の多少を見れば、北米合衆國の人民は、一ヶ年に各人平均百六十通の郵便物を發送し、英獨佛等の人民之に次ぎ、吾等日本人は、年平均僅に二十餘通の郵便を發するのみにて、文明諸國中の下位にあり。(九)次に、郵便物等と共に、其の國民文化の程度を知るべき教育の有様を比較すれば、其の最もよく普及せるは、獨逸那威瑞典等にして、何れも人口一千につき、全く文字を解せざ



第八十一圖  
主要諸國民の  
郵便物數比較  
圖



一日の所得四圓拾錢を以て、一家五口の生計を爲すを得べく、我日本の富力は最小にして、僅に六拾九錢の所得を以て、

るものは、僅に一人の割合なり。然るに我國に於ては、尙百六十人の文盲者ある割合にして、彼の露西亞の如きは、實に六百二十人の多數の文盲者を有せり。  
(十) 猶次に、各國富力及び所得の大勢を比較すれば、略、左表に示す所の如し。

今、此の表に就て見るに、英吉利國民の富力は最も大にして、其の一戸

毎日五口を養はざるべからざる割合なり。然らば則ち、我國民の所得の如何にも僅少にして、生計の貧しきを察知するに足るべく、從て又、産業を興し、國を富まし、所得を増加す

列強富力(所得)比較表

國名	國民一人富力	國民一人當所得 (富力の一割とす)	一戸一年間の所得 (一戸五人と見る)	一戸一ヶ月間の所得 (一戸五人とす)	一戸一日の所得 (一戸五人とす)
英	二九六四	二九六	一四八〇	一一三、三三三	四、一一
佛	二六八八	二六九	一三四五	一一二、一〇	三、七四
米	二五二〇	二五二	一二六〇	一〇五、〇〇	三、五〇
獨	一九二八	一九三	九六五	八〇、四〇	二、六八
伊	一二〇〇	一二〇	六〇〇	五〇、〇〇	一、六七
露	六六〇	六六	三三〇	二七、五〇	〇、九二
日	五〇〇	五〇	二五〇	二〇、八〇	〇、六九

日本人の所得は、英國人の所得の約六分の一に過ぎず。



る事の眞に我國の急務たるを覺悟すべきなり。

### 第六章 世界に於ける本邦の地位

一、地理上 我日本帝國は、一連の花彩形をなせる列島と、大陸の一角を占むる半島部とより成り、其の大部分は温帯に位して、寒暑中を得、雨量亦頗る多く、氣候最も健康に適し、一方には、將來開發の餘地に富める亞細亞大陸を控へ、一方には、往て利を採るべきオセアニア洲及び南北亞米利加大陸あり。而して、其の間には、將來世界の運命を支配すべき太平洋の湛ふるあり。若しそれ、パナマ運河開通の曉には、直に大西洋及び歐羅巴洲・阿弗利加洲と連絡するを得べし。かくて我日本は、世界列國通商の一大要路に立つことゝ

なるべし。

位置・氣候既に此の如く良好なるが上に、地味亦肥沃、山水の風景世界に冠絶し、海には暖流あり、寒流あり、天産豊に、國民は古來皆忠實勇武を尙び、特に國體の如きは、世界諸國の等しく仰望する所たり。加ふるに、近年露西亞に勝つて以來、我名聲世界に轟き、一躍して列強と伍を同じうするに至れり。あゝ誰か喜び且つ勇まざるものあらんや。

二、國力上 然りと雖も、翻て、我國の實力如何を顧れば、實に諸列強中の下位にあるを如何にかせん、唯之を憾みとするのみ。去りながら、つらく、近年に於ける我國勢發展のあとを尋ぬるに、其の進歩の割合頗る著しきを見る。若し、自疆息まずんば、將に他の強國を凌ぐべき日來らん。され



ば吾等國民たるものは、各、其の責任の重且大なるを了解し、奮つて此の天與の地利と、父祖經營の功とを、空しうせざらんことを期せざるべからざるなり。

女子地理概説終

附録

(一) 各國人民の重なる職業別 (百分比)

	農業者	工業者	商業者	其他	
英(愛蘭を 除く)國	九、二	四八、三	二二、八	一九、七	工業國
米國	三五、九	二四、一	一六、三	二二、七	農業國
獨國	三七、五	三七、四	一〇、五	一四、五	半農半工國
佛國	四一、八	三五、五	九、五	一三、二	農業國
露國	五八、三	一七、九	七、一	一六、七	同
埃國	六〇、九	二三、三	五、四	一〇、四	同
伊國	五九、四	一四、五	七、四	一八、七	同
白國	二一、一	四一、六	一一、七	二五、六	工業國
和蘭	三〇、七	三三、七	一七、二	一八、四	同
日本	約六〇、〇	商工業者計 約一五、〇		二五、〇	農業國



(二) 世界の重要産物及び其の産地 (その一、産額多量なるもの)

- 一、小麥 北米合衆國—露國—佛國—印度—伊太利—西班牙—アルヘンチナ。
- 二、米 清國—印度—シアバ—佛領印度支那—日本。
- 三、茶 印度—清國—セイロン—日本—シアバ。
- 四、珈琲 ブラジル—コロンビヤ—シアバ—中央アメリカ—ベネズエラ—印度。
- 五、肉類 北米合衆國—アルヘンチナ—カナダ—丁抹。
- 六、砂糖 印度—獨逸—澳洪國—佛國—露國—シアバ—瑞典—キウバ。
- 七、煙草 北米合衆國—印度—キウバ—露國—西印度諸島—マライ諸島。
- 八、魚油 北米合衆國—英國—露國—日本—佛國—カナダ—ノルウェー。
- 九、葡萄酒 伊太利—佛國—西班牙—澳洪國—アルゼリア—ポルトガル。
- 一〇、ビール 獨逸—北米合衆國—英國—澳洪國—白耳義。
- 一一、棉 北米合衆國—印度—エジプト—清國—中央亞細亞—伯西兒。
- 一二、棉絲 英國—獨逸—佛國—北米合衆國—日本—露國。
- 一三、生絲 清國—日本—伊太利—土耳其—佛國—ペルシア。

一四、羊毛

濠洲—アルヘンチナ—南阿弗利加。

一五、麻

露國—澳洪國—印度—フィリピン—メキシコ—ニュージーランド。

一六、石炭

北米合衆國—英國—獨逸—佛國—白耳義。

一七、金

トランスバール—北米合衆國—濠洲。

一八、銀

メキシコ—北米合衆國。

一九、銅

北米合衆國—メキシコ—イベリア半島—濠洲—日本—智利。

二〇、鐵

北米合衆國—獨逸—英國—露國—佛國—白耳義—西班牙—瑞典。

二一、石油

北米合衆國—露國—ロマーニア—ボルネオ。

二二、木材

北米合衆國—瑞典—露國—カナダ。

(三) 世界の重要産物及び其の産地 (その二、産額稍少きもの)

- 一、アルパカ 秘魯。
- 二、駝鳥の羽毛 喜望峰植民地。
- 三、毛皮 加拿大—西比利亞。



- 四、皮 革 アラビア 亞爾然丁—濠洲。
- 五、栓 樹 アラビア 西班牙—伊太利—アルジェリア。
- 六、烏 木 セイロン 印度—錫蘭。
- 七、護 謨 アラビア 伯西兒—馬來諸島等。
- 八、象 牙 マライ 錫蘭—西部阿弗利加—西伯利亞。
- 九、マホガニー(材) マライ 中央亞米利加—伯西兒。
- 一〇、眞 珠 印度洋沿岸。
- 一一、白 金 メキシコ ウラル山脈—墨西哥—伯西兒。
- 一二、檀 香 木 馬來諸島—太平洋諸島。
- 一三、海 綿 土耳其レバント—西印度諸島バハマ。
- 一四、チ ー ク(材) 佛領印度—英領印度。
- 一五、藍 靛 英領印度—中央亞米利加。

(四) 我國と外國との交通

一、世界一週線(その一)

- 敦賀—浦港……………四〇時間
- 浦港—モスクバ……………一四日間
- 門司—大連……………二日間
- 大連—モスクバ……………一二日間
- モスクバ—伯 林—巴里—倫敦……………三日間此間共通
- 倫敦—紐育……………五日間
- 紐育—桑 港……………六日間
- 桑港—橫濱……………一四日間
- 倫敦—ハリファクス……………五日間
- ハリファクス—バンクーバー……………五日間
- 晚克坡—橫濱……………一日間

計三四日間、又は(三八日間)。

二、世界一週線(その二)

凡そ一萬九千哩。

- 橫濱—神戸……………一日間
- 神戸—門司……………一日間
- 門司—上海……………二日間
- 上海—香港……………三日間
- 香港—新嘉坡……………五日間
- 新嘉坡—彼南……………一日半
- 彼南—古崙母……………五日間
- 古崙母—蘇士……………一二日間
- 蘇士—坡西土……………一日間
- 坡西土—マルセイユ……………六日間
- マルセイユ—倫敦……………一日間



倫敦以後は(その一)に同じ。

計 三八日間

三、濠洲線

横濱—神戸—門司……………(出帆)  
 門司—長崎……………半日間  
 長崎—香港……………三日半  
 香港—マニラ……………二日間  
 マニラ—木曜島……………七日半  
 木曜島—タウンズビル……………二日半  
 タウンズビル—ブリスベイン……………二日半  
 ブリスベイン—シドニー……………一日半

四、南米線

香港—神戸—横濱—ホノル、—マンサニ  
 ヨ—サリナクルス—カリヤオ—イキケ—  
 バルバライン

計 二二日間

五、孟買線

神戸—門司—香港—新嘉坡—古倫母或は  
 チュチコリン—孟買

計 二四日間

附 録 終

不許複製



明治四十四年十月十四日印刷  
 明治四十四年十月十七日發行  
 明治四十五年二月十二日訂正再版印刷  
 明治四十五年四月十五日訂正再版發行

著 者 武 居 芳 成  
 著 者 小 林 盈  
 著 者 依 田 豊  
 發 行 者 兼 印 刷 者 株 式 會 社 啓 成 社  
 代 表 者 遠 藤 國 次 郎

東京市日本橋區本銀町三丁目二番地  
 株 式 會 社 啓 成 社  
 專 務 取 締 役

女子地理概説與付  
 定價 金三拾五錢

發行所

東京市日本橋區本銀町三丁目二番地

株式會社 啓

成

社

電話本局二一〇〇  
 振替貯金東京二〇五五













本館蔵書  
矢田

広島大学図書

2000044053



文庫  
12  
053